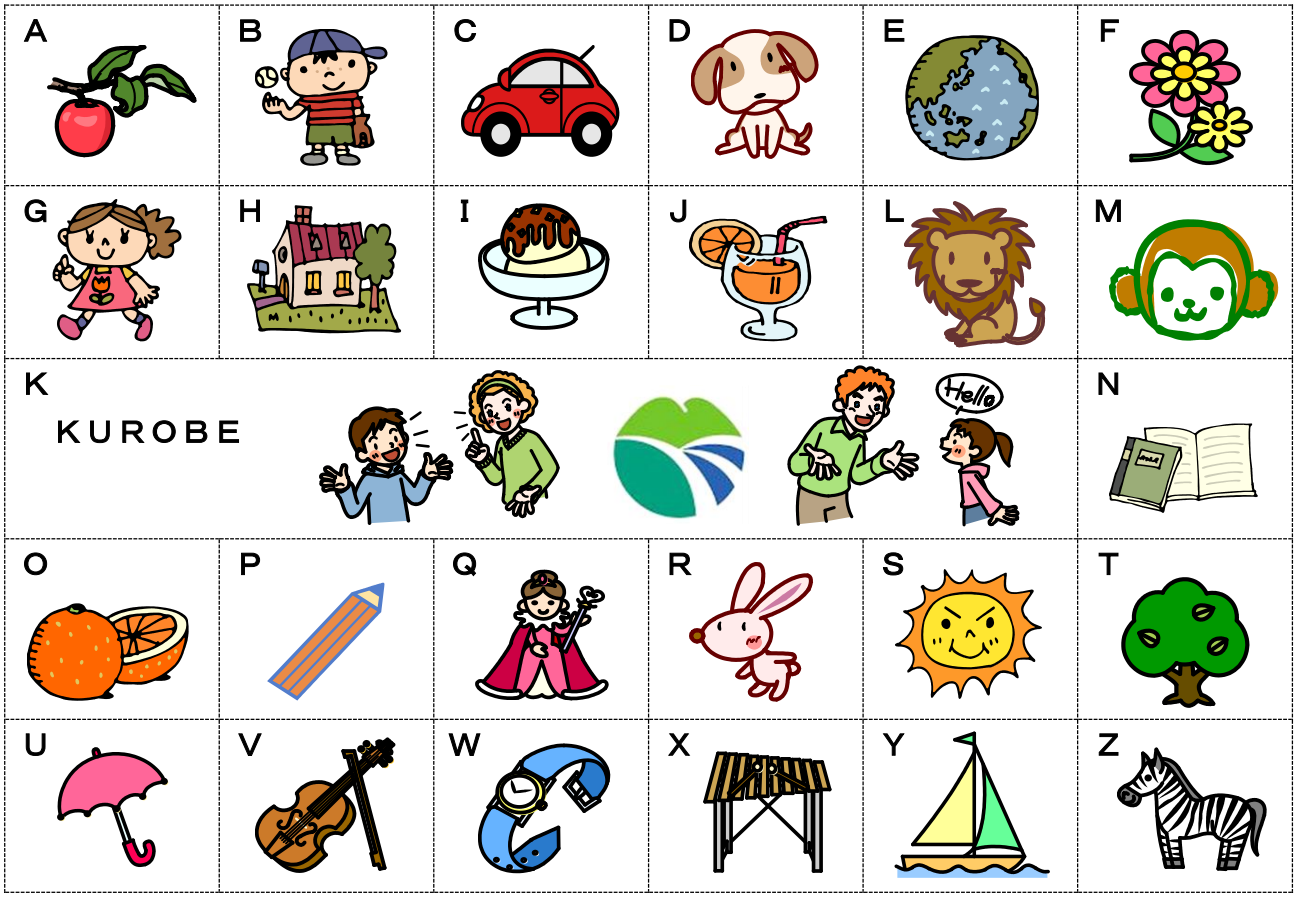
令和４年度　黒部国際化教育推進事業

英会話科等のまとめ



令和５年３月

黒部市教育委員会

黒部市教育センター

目　次

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・1

１　英会話科等の学習に関するアンケート結果・・・・・・・・・・・・・1

２　英語検定３級以上の取得率、受検率等について・・・・・・・・・・・16

３　Enjoy talking の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

４　Speaking test の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

５　授業公開月間のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

（１）授業公開の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

（２）各小中学校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

・生地小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

・たかせ小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

・石田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

・村椿小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

・中央小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

・桜井小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

・宇奈月小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

・清明中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

・明峰中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

（３）来校者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

（４）保護者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

（５）教員アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

Ⅱ　英語サマーキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

Ⅲ　姉妹都市交流研修事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

Ⅳ　付録　英会話科等 17 年間のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・66

Ⅰ　英会話科等の取組における成果と課題

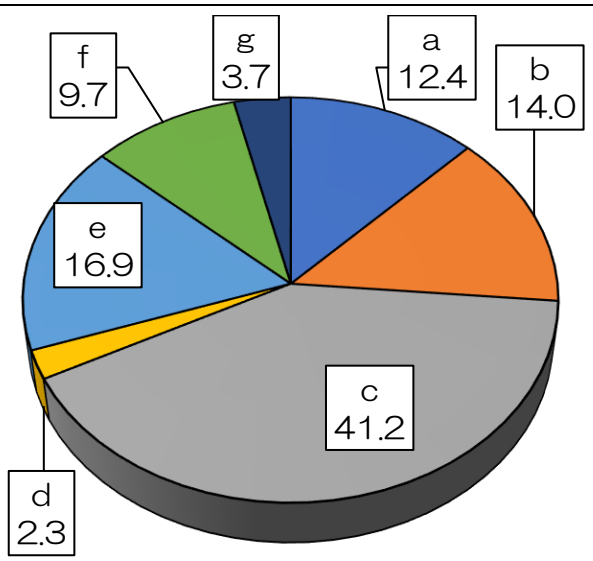
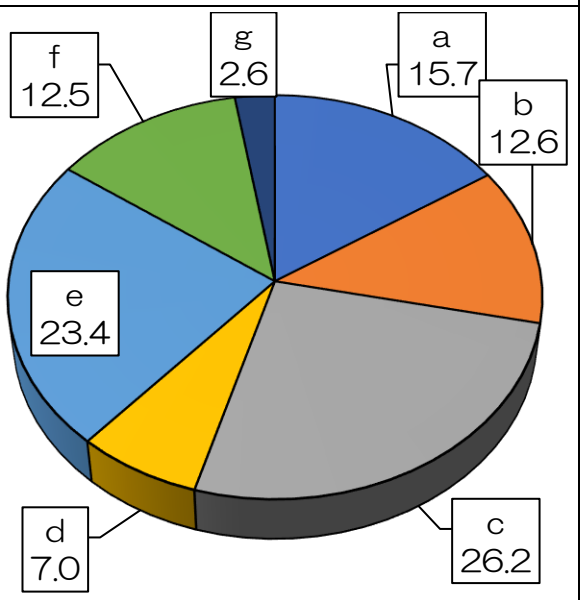
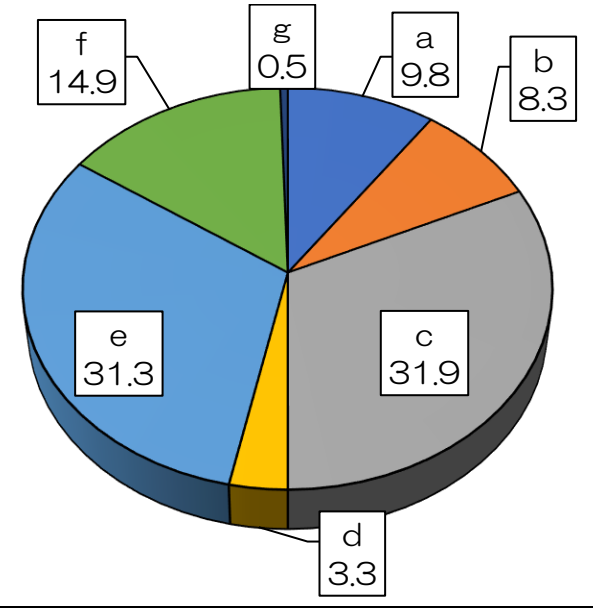
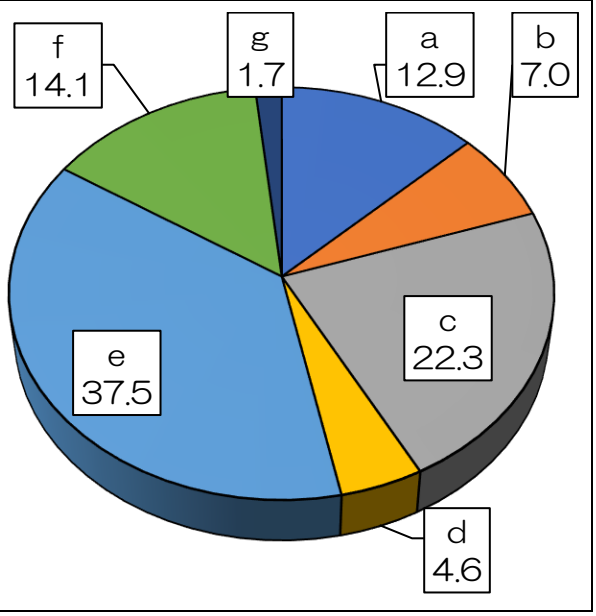
１　英会話科等の学習に関するアンケート結果

(1)　英語の学習で身に付けたい力

市内の小・中学校の保護者と小学５年生から中学３年生までを対象に「英語の学習で身に付けたい力」についてのアンケート調査（７項目選択式、複数回答可）を行った（保護者：2,274 人、小学５年生：300 人、小学６年生：335 人、中学１年生：331 人、中学２年生：316 人、中学３年生：324 人）。

下のグラフはその結果である。

ａ：国際社会で活躍できる　　ｂ：海外でのホームステイや語学研修を楽しむ
ｃ：外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ
ｄ：高校卒業後に、海外の大学などに進学できる　　ｅ：高校入試に対応できる
ｆ：英検やＴＯＥＩＣなどに対応できる　　ｇ：その他

	保護者（付けさせたい力）	児童（５・６年）・生徒（付けたい力）
小学校		
中学校		

＜結果＞

・小・中学校の両方の保護者において、「外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力」を付けさせたいと考えている割合が最も高い。
・児童生徒の結果においては、小学校（児童）は「外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力」を付けたいと考えている割合が最も高く、中学校（生徒）は「高校入試に対応できる力」と付けたいと考えている割合が最も高い。
・「国際社会で活躍できる力」については、児童生徒の方が保護者より割合が高い。
・「海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力」については、保護者の方が児童生徒より割合が高い。
・「英検やＴＯＥＩＣなどに対応できる力」については、中学校の保護者が付けさせたいと考えている割合が最も高い。

＜保護者アンケート自由記述から＞

【授業内容】

・思っていた以上にレベルが高い内容だったのでびっくりしました。親が子供たちから学ばされるくらいで楽しそうでよかったです。
・小学２年生の学級を参加しましたが、レベルが高くて驚きました。今後、文字を読める子とそうでない子で差が出てきそうなので、フォニックスを取り入れてほしいです。
・ただ「英語を話す」というのではなく、「相手に伝わるように、どう表現するか」というものが授業に盛り込まれていて、今後の子供たちの成長が楽しみになる授業でした。
・グループワーク等、児童一人一人が積極的に授業に参加しており、楽しく学習していました。参加型になっていて、自ら進んで質問している姿が印象に残りました。
・「外国人って？」「自分が住んでいる国はどこ？」「どうやって外国人と話すの？」など英語を学ぶ目的意識のような質問が家庭で出始めています。これらの興味・関心が純粋な学習意欲につながっていくことを期待しています。
・これまでの授業参観で１番楽しそうに取り組んでいました。家でもＡＬＴの先生の話をよくしてくれていて、外国語の授業がとても楽しいようです。
・英会話の授業が楽しいようで家でも普段の生活でも英語の文を話しています。これからも楽しみながら身に付けていってほしいです。
・ＡＬＴの先生とコミュニケーションをとることで、異文化への興味をもつことにつながっていると思います。
・素晴らしい授業でした。すべて英語で授業が進められ、黒部市の魅力について考え話し合う内容になっており感心しました。
・自分が中学生のときより進んだ授業を受けていると感じました。
・ネイティブな英語に触れることができて、言語として身に付けばよいと思います。日頃から、英会話の授業が楽しそうです。

【授業の３人体制】

・楽しみながらの英語学習で子供たちも楽しそうでよかったです。３人体制で行われていてよかったです。
・全員の子供や各グループに気を配り、声をかけておられてよいと思いました。３人体制の方が、子供たちの緊張感が出てよいと思います。

【技能】

・ジェスチャーしながらだったり、リズムに合わせたりするなどの工夫があり覚えやすいだろうと思いました。単語を使って会話をするやり取りもみんな楽しそうで、家に帰ってから「タオル、プリーズ」など子供が使えるところで英語を話してくれたので、うれしかったです。
・家で英語の質問をされたことがあり、英語を楽しんでいると思います。
・英語でのプレゼンテーション（黒部のおすすめスポット紹介等）をしていて楽しそうだと思いました。母国語以外の言語で相手に伝える力が養われてよいと思います。
・自分の子供２人が高志野中学校時代、高校に進学した際に言われたのが「英語の発音がよいので、英語弁論大会に出てほしい」とのことだった。黒部市の英語への取組、ＡＬＴ、ＪＥＴの先生方がとてもよい指導をしてくださったからだと思っています。

【市としての取組】

・低学年のときから英語と触れ合うことはこれからの社会で大切になってくると思うので、よいことだと思います。学年が上がるにつれて英会話の授業回数がさらに増えるとよいと思います。
・英語は、必要だなと思いながら習い事にも通わせてあげられないので、授業で取り入れていただけてとてもありがたく思っています。子供もとても楽しいようで自然に身に付けていけたらよいなと思います。
・英検だけでなくＴＯＥＩＣも受けることができる学校環境になるとうれしいです。また、海外の学校とＺｏｏｍ等で交流ができると楽しいのではないかと思います。
・オンラインで外国の姉妹校とやり取りするなど思い切ったことができればすばらしいと思います。
・日頃の授業が魅力的なおかげで、子供が英語サマーキャンプに参加するようになりよい経験ができました。

(2) 児童生徒アンケートの結果

市内の小学校１年生から中学校３年生までを対象に、アンケート調査（自分のことを振り返って記入する、自己評価）を行った。

【実施時期】　令和４年 10 月 24 日～令和４年 11 月 25 日（授業公開実施期間）

【実施校数】　小学校９校、中学校２校　※市内全小・中学校

【回答人数】　小学校・・・　１年生　278 人、２年生　350 人、３年生　303 人
４年生　318 人、５年生　300 人、６年生　335 人
中学校・・・　１年生　331 人、２年生　316 人、３年生　324 人

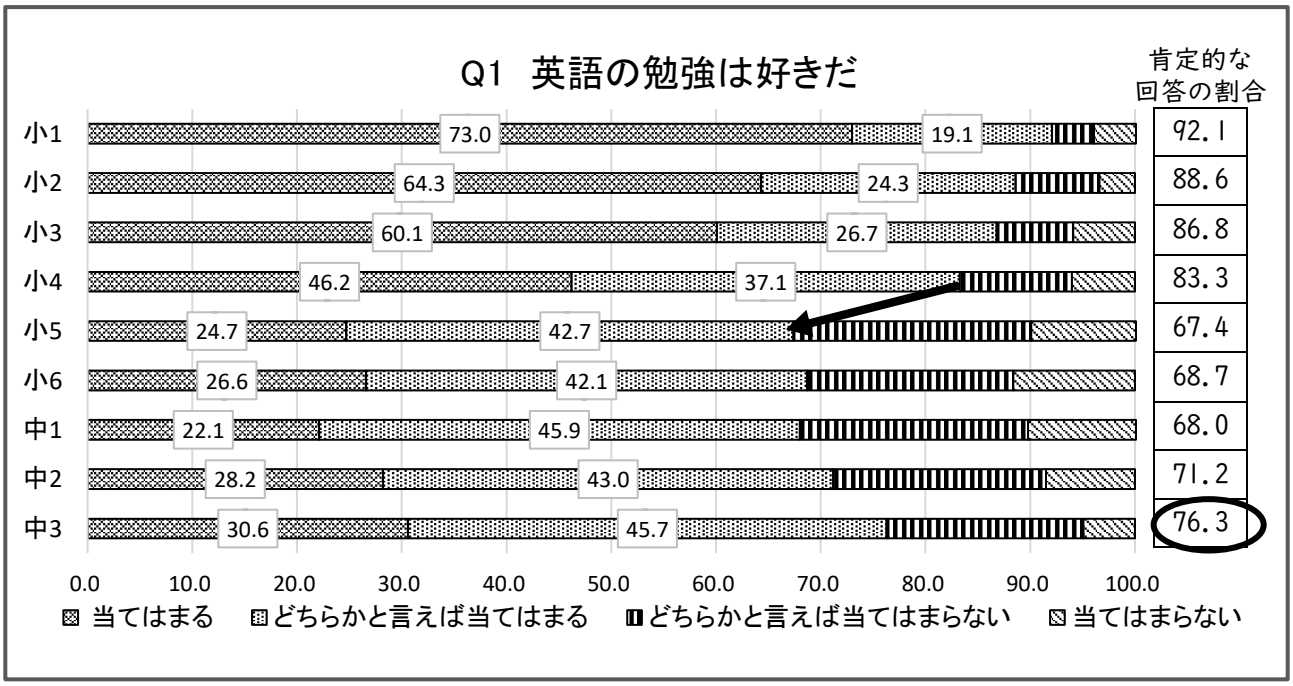
※（参考）令和３年度の回答人数
小学校・・・　１年生　347 人、２年生　307 人、３年生　321 人
４年生　308 人、５年生　338 人、６年生　357 人
中学校・・・　１年生　330 人、２年生　338 人、３年生　334 人

【質問項目】
① 興味・関心「英語の勉強は好きだ」
② 理解度「英語の勉強はよくわかる」
③ 聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」
④ 読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」
⑤ 話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」
⑥ 話すこと（やり取り）
「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」
⑦ 話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」
⑧ 書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」
⑨ 英語の学習で身に付けたい力
「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）。」

※児童生徒の発達段階に応じた質問数及び質問内容とした。

アンケート調査の結果は次のグラフのとおりである。

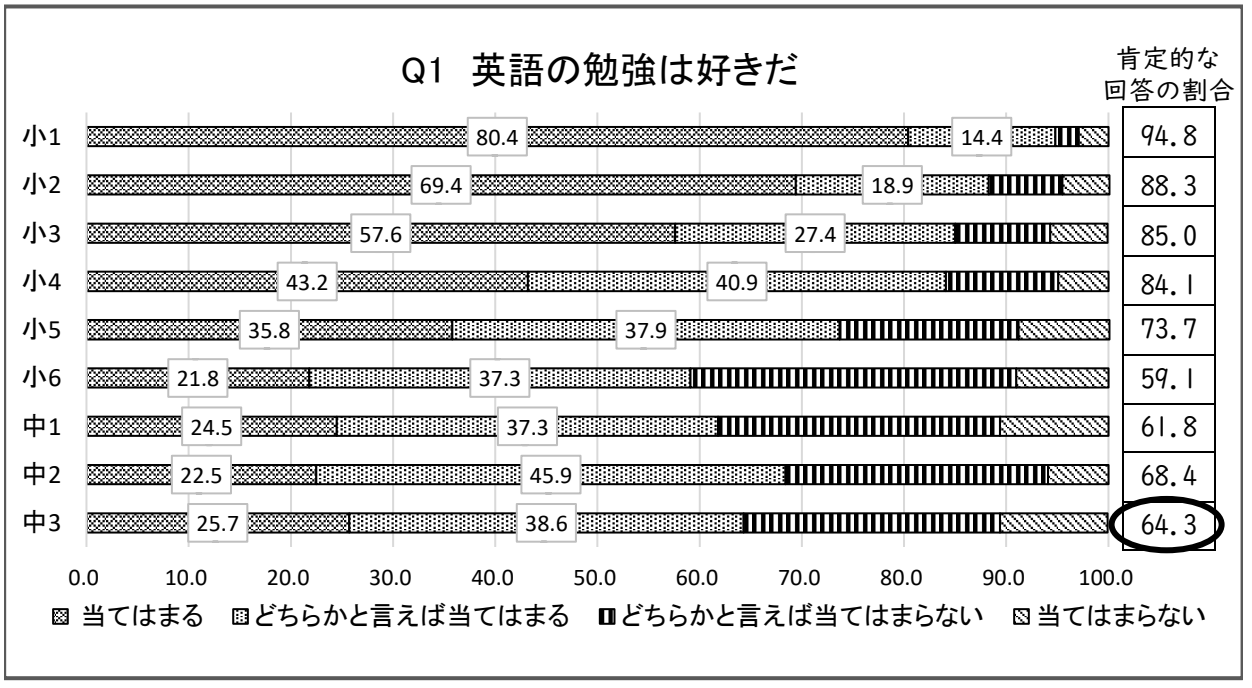
① 興味・関心「英語の勉強は好きだ」



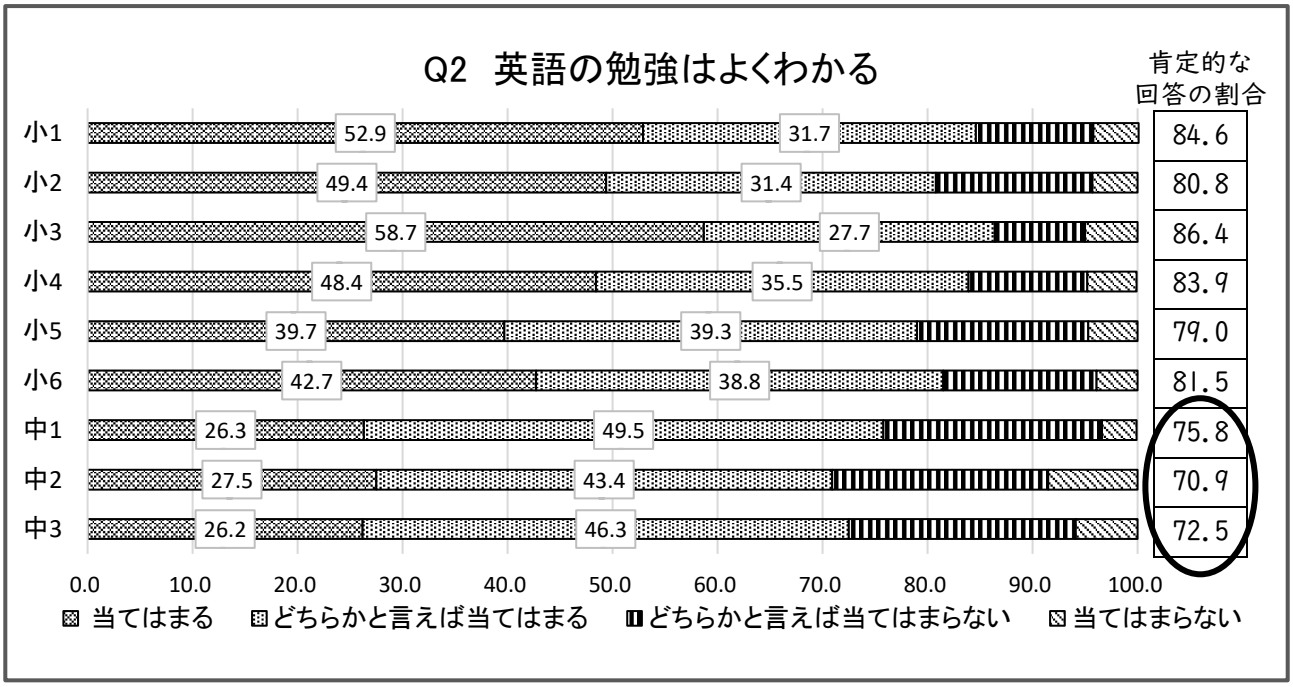
昨年度までと同様に、学年が上がるにつれて肯定的な意見（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）の割合が低くなる傾向がみられる。特に、小学4年生から5年生の肯定的な意見の割合の減り方は、1年生から4年生までの減り方と比べると、大きくなっている。グラフを全体的に捉えると、肯定的な意見の割合は、小学6年生を境に減少から増加へと変わっていく。しかし、下の昨年度の中学3年生の肯定的な意見の割合と比較すると、12ポイント高くなっていた。

小学5年生から「読む」「書く」活動が加わったことにより、「できる、できない」を意識する場面が増えたことが肯定的な意見の割合の減少に一時的に影響していると考えられる。小学校段階での「読むこと」「書くこと」については、音声で十分に慣れ親しませることが前提にあり、子供たちに抵抗感なく指導していく必要がある。これからも、小学校から中学校へのスムーズな接続を意識した指導が必要である。

（参考）令和３年度の結果



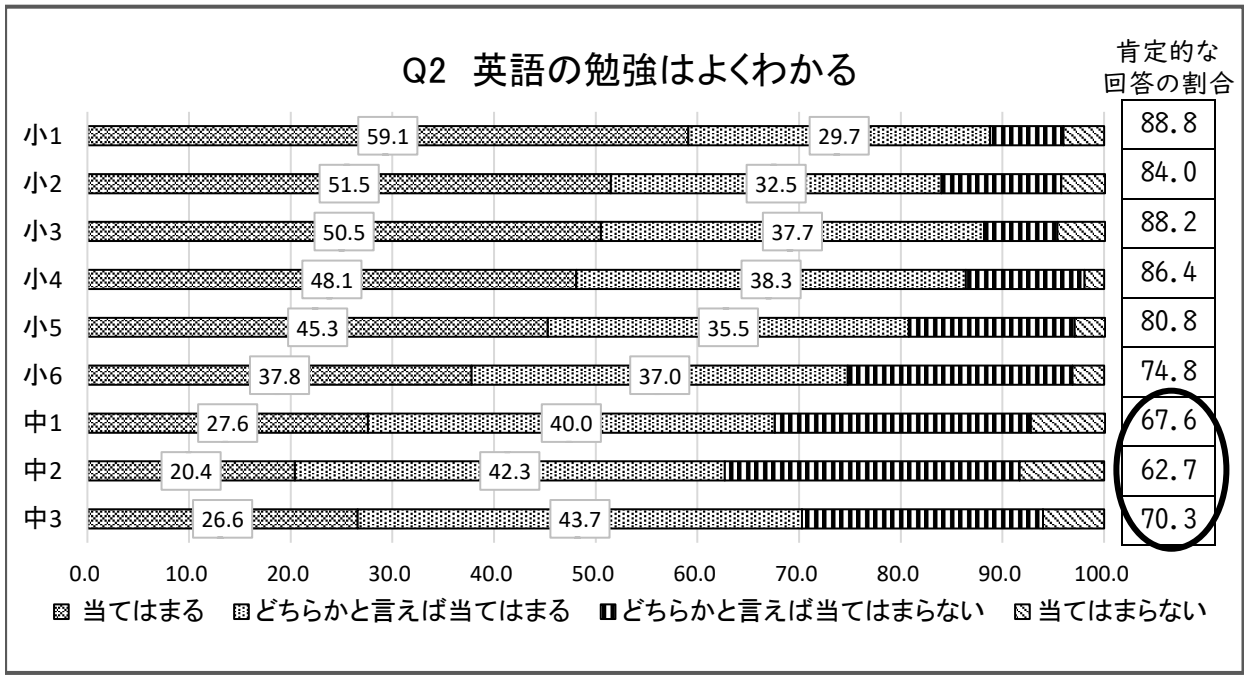
② 理解度「英語の勉強はよくわかる」



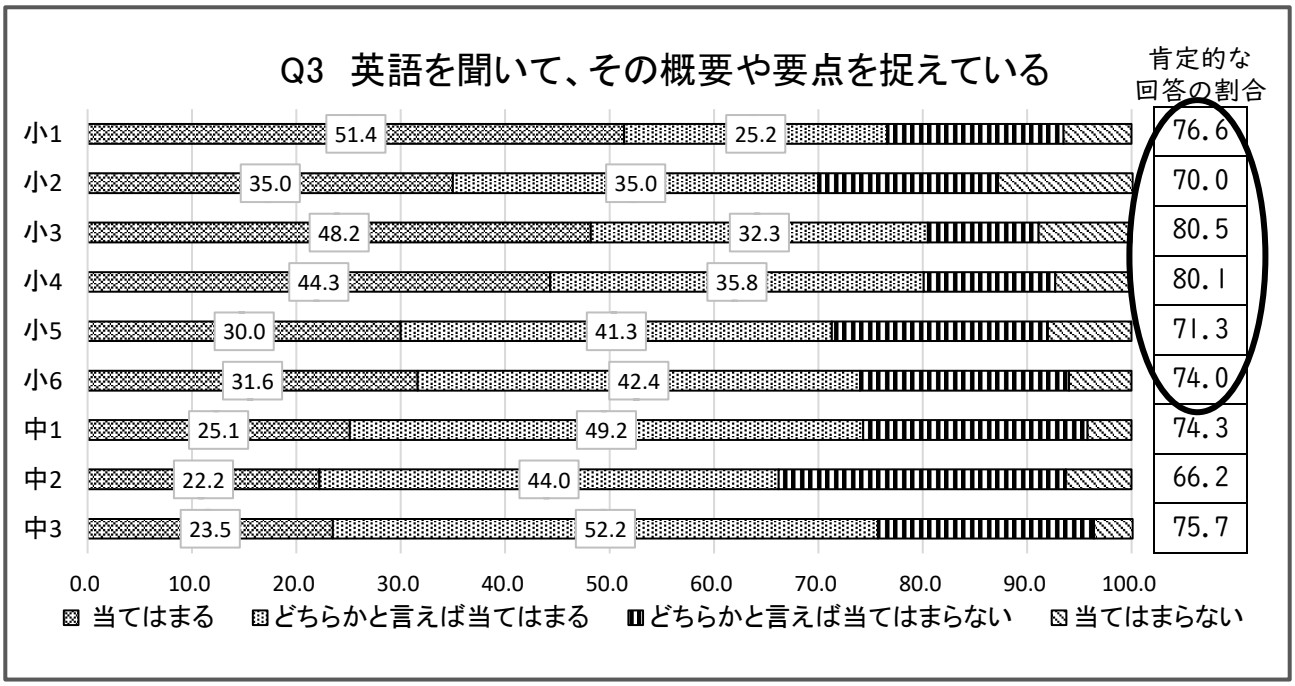
小学校は、昨年度同様、ほとんどの学年で肯定的な意見の割合が8割を超えている。中学校は、7割台となっている。しかし、下の昨年度のグラフと比較すると、中学校は6割台であったものが、今年度は7割台となり、改善が見られた。今年度もコロナ禍ではあったが、世の中がコロナ禍であっても社会経済活動を止めないのと同様に、学習の場においてもペアやグループ活動等を復活させ、コミュニケーション活動がコロナ禍前と同じように取り組まれるようになってきたことが増加の要因になっていると考える。

専科教員や HRT（担任）、ALT（外国語指導助手）、JAT（小学校英会話講師）の T･T の在り方、英語を用いたコミュニケーションの場の設定の在り方等、英会話科等定例会にて指導方法を再確認し、児童生徒の「楽しい」という意識を高め、「分かる」「できる」につなげていきたい。

（参考） 令和３年度の結果



③　聞くこと「英語を聞いて、その概要や要点を捉えている」



小学校の肯定的な意見の割合は7割台、中学校は7割前後となっている。下の昨年度のグラフと比較すると、小学校において肯定的な意見の割合が低くなっている傾向がみられる。

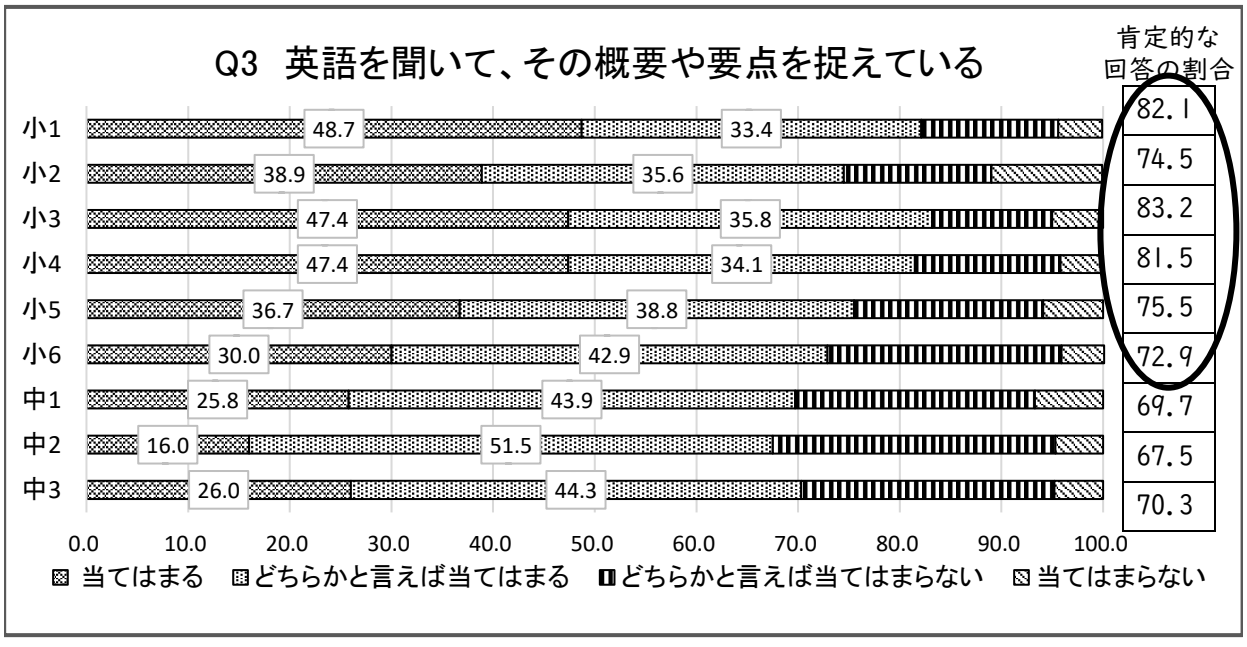
英語をすぐに日本語で通訳するのではなく、英語で話す速度を変化させながら複数回聞かせる、大切なワードを強調するなど、児童生徒が内容を類推しながら聞くことができるように工夫していく必要がある。

中教研学力調査（11月調査）の英語科におけるリスニング領域について県平均と本市の平均を次のように比較した。

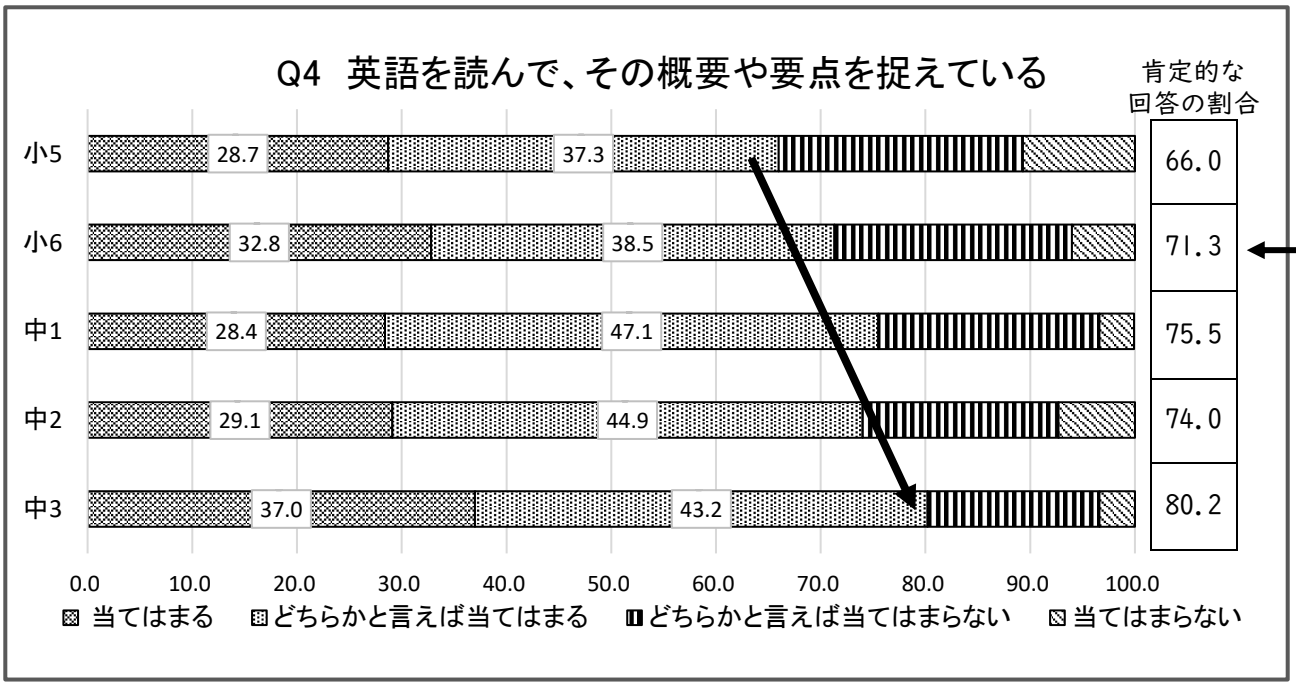
$$\frac{\text{本市の中学1～3年生のリスニング領域の平均正答率}}{\text{富山県のリスニング領域の平均正答率}} \times 100$$

その結果、数値は103であった。100を超えているため、聞く能力が優れていることが分かる。

（参考）令和３年度の結果



④　読むこと「英語を読んで、その概要や要点を捉えている」

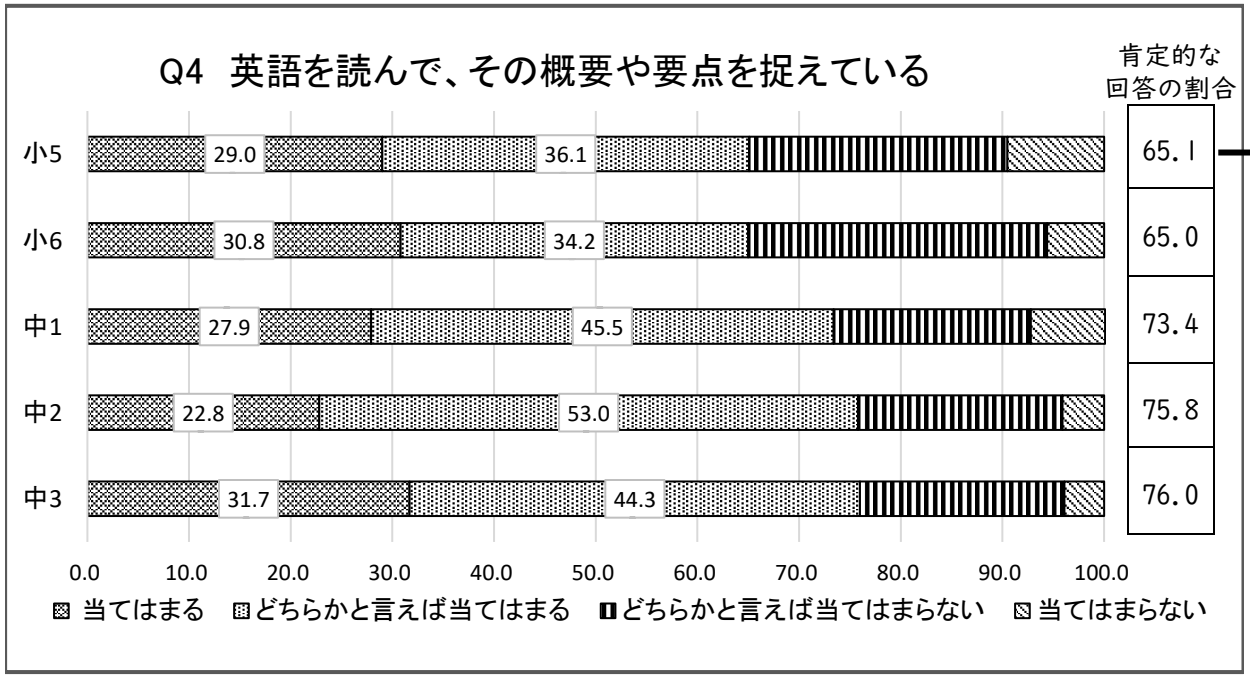


小学校の肯定的な意見の割合は6～7割台、中学校は7～8割台となっている。学年が上がるにつれて徐々に英語を読んで概要や要点を捉えることができるようになってきている。

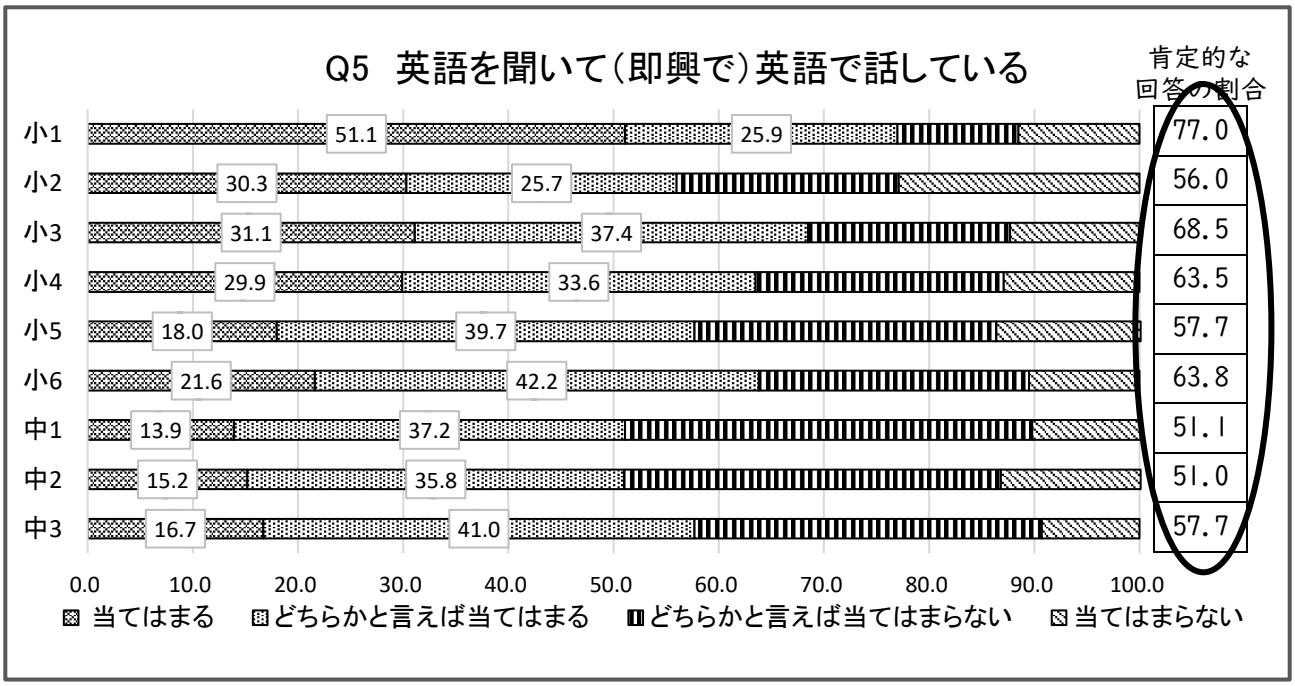
下の昨年度のグラフと比較すると、ほとんどの学年で肯定的な意見の割合が増えている。

さらに、昨年度の自分たちと比較すると、全ての学年で肯定的な回答の割合が増えており、英語を読んで概要や要点を捉えることができると自覚している児童生徒の割合が増えてきている。

（参考）令和３年度の結果

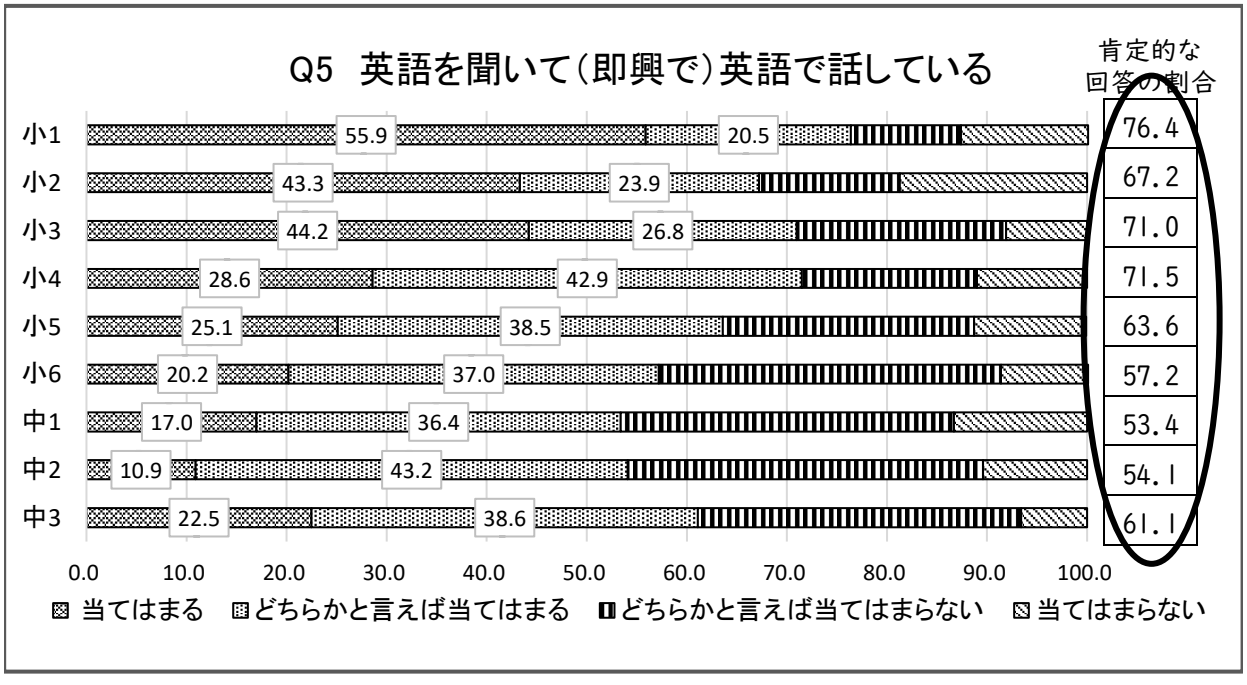


⑤　話すこと（やり取り）「英語を聞いて（即興で）英語で話している」

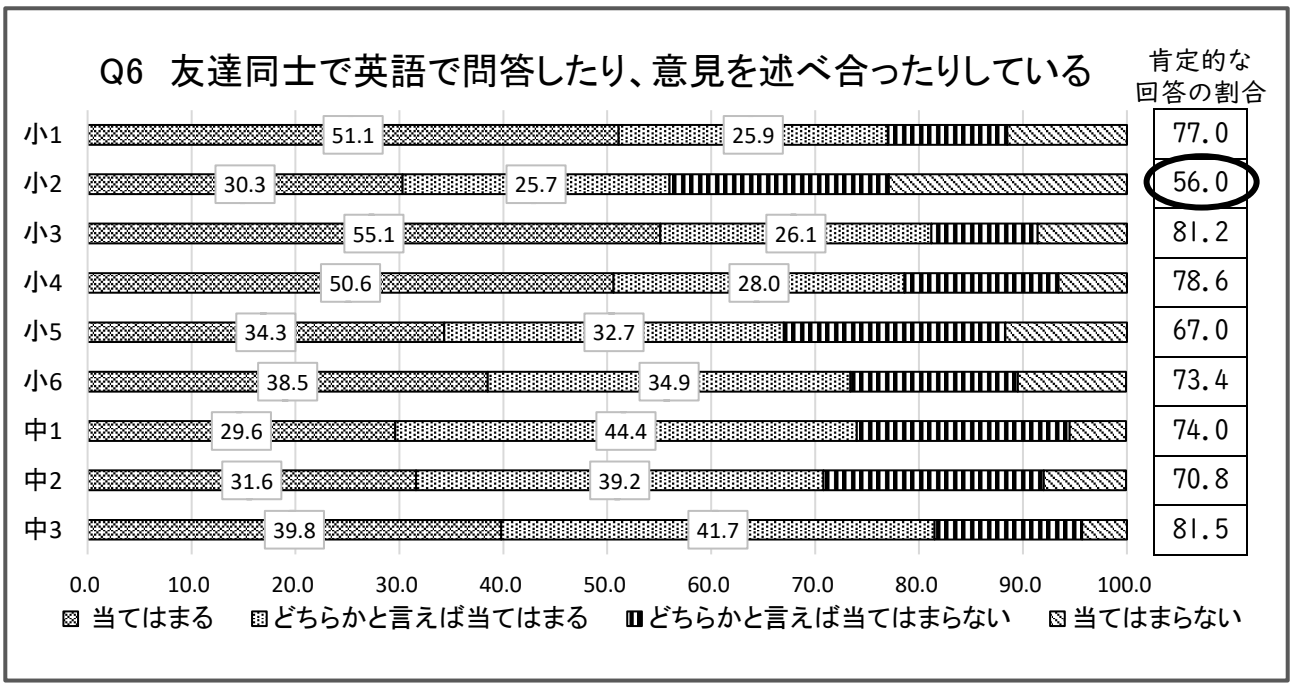


小学校の肯定的な意見の割合は6割台、中学校は5割台となっている。昨年度のグラフと比べると全体的に同じような概形となっているが、多くの学年で少しずつ肯定的な意見の割合が減ってきている。授業における「スモールトーク」等、学んだ英語表現を活用しながら児童生徒が即興でやり取りする場を大切にしていく必要がある。アンケートの⑨「英語の学習で身に付けたい力」の結果にもあるように、児童生徒・保護者は「外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい」という思いをもっているため、即興でのやり取りをする機会を意図的・計画的に取り入れた指導を行っていく必要がある。「自分の話したことが相手に伝わった」「相手の話していることが分かった」という経験が、コミュニケーション活動の意欲を高め、英語の勉強に対する「好き」という気持ちにつながっていくと考える。

（参考）令和３年度の結果



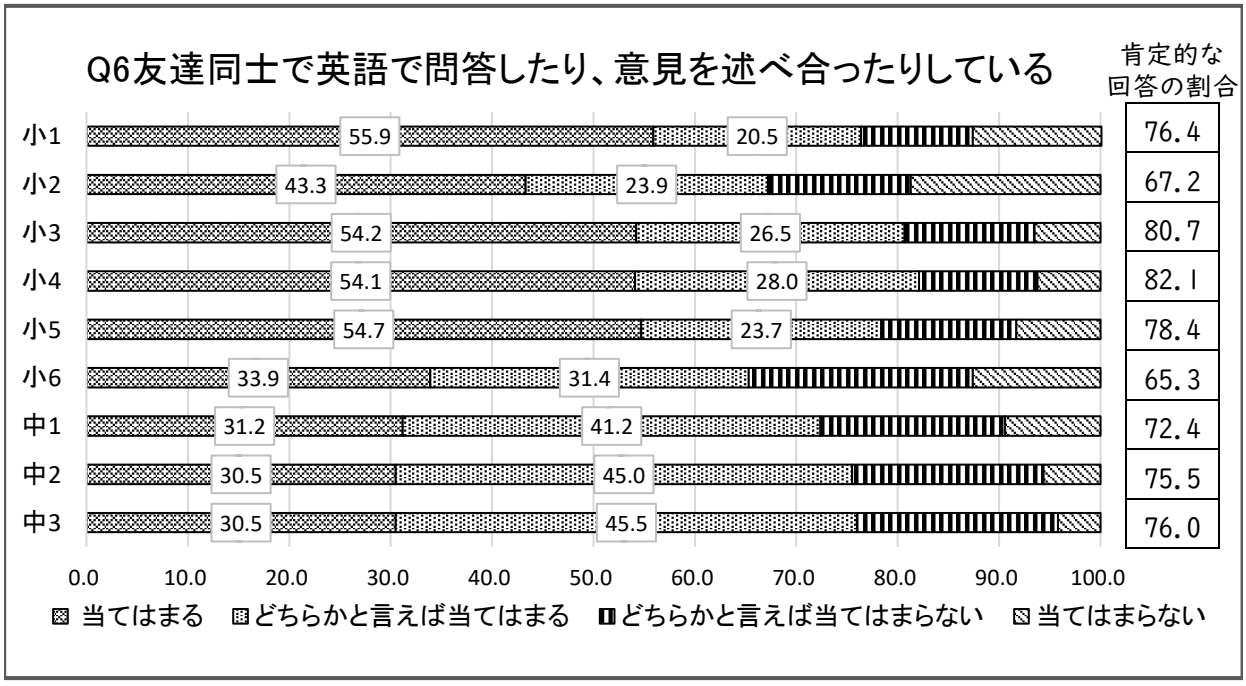
⑥　話すこと（やり取り）「友達同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりしている」



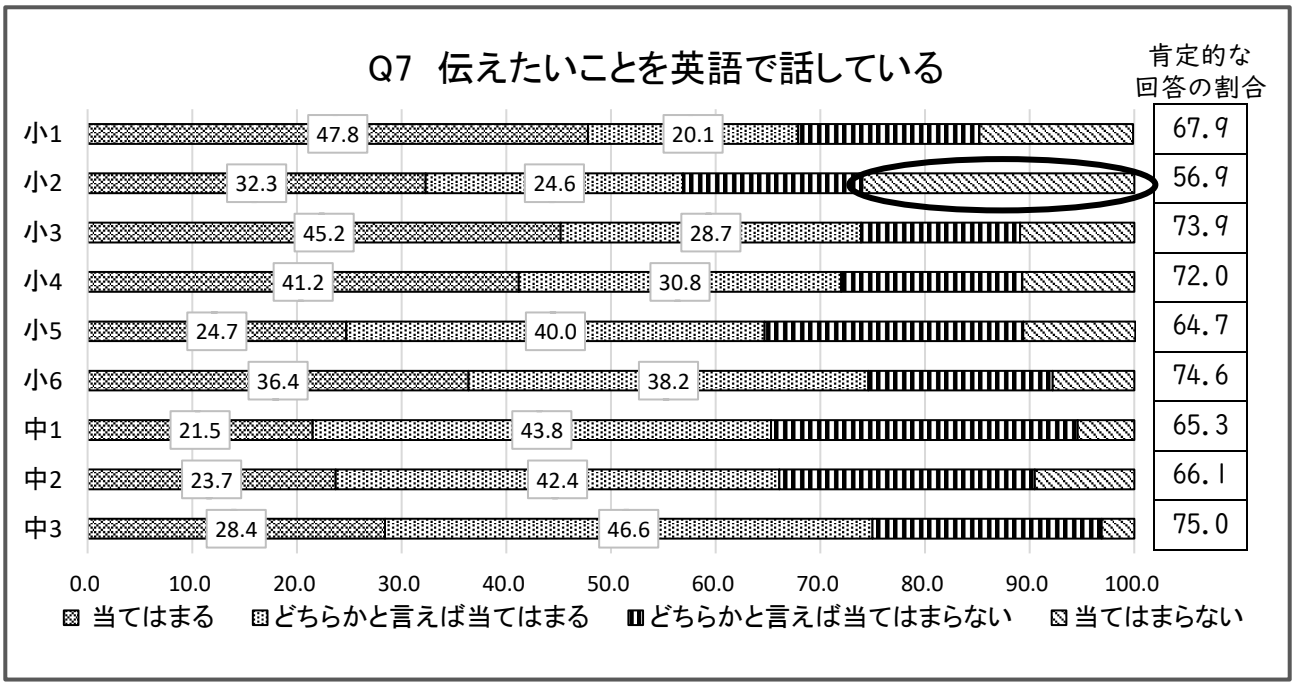
中学校の肯定的な意見の割合は7割台となっている。小学校の肯定的な意見の割合は、学年間に差があった。特に、小学2年生の肯定的な意見の割合は、56.0と全学年の中で最も低い数値であった。

小学校低学年においては、使える英語表現が少なかったり、英語を使う必要感を感じにくかったりすることも考えられるが、場面設定や短い英語でのやり取り等の工夫をし、児童が楽しい思える活動をする中で相手に質問をしたり、相手の質問に答えたりするコミュニケーション活動を取り入れていくとよいと思われる。また、低学年はHRT（学級担任）とALTとの2人体制で指導となるので、担任の英語への抵抗感についても課題である。

（参考）令和３年度の結果



⑦　話すこと（発表）「伝えたいことを英語で話している」

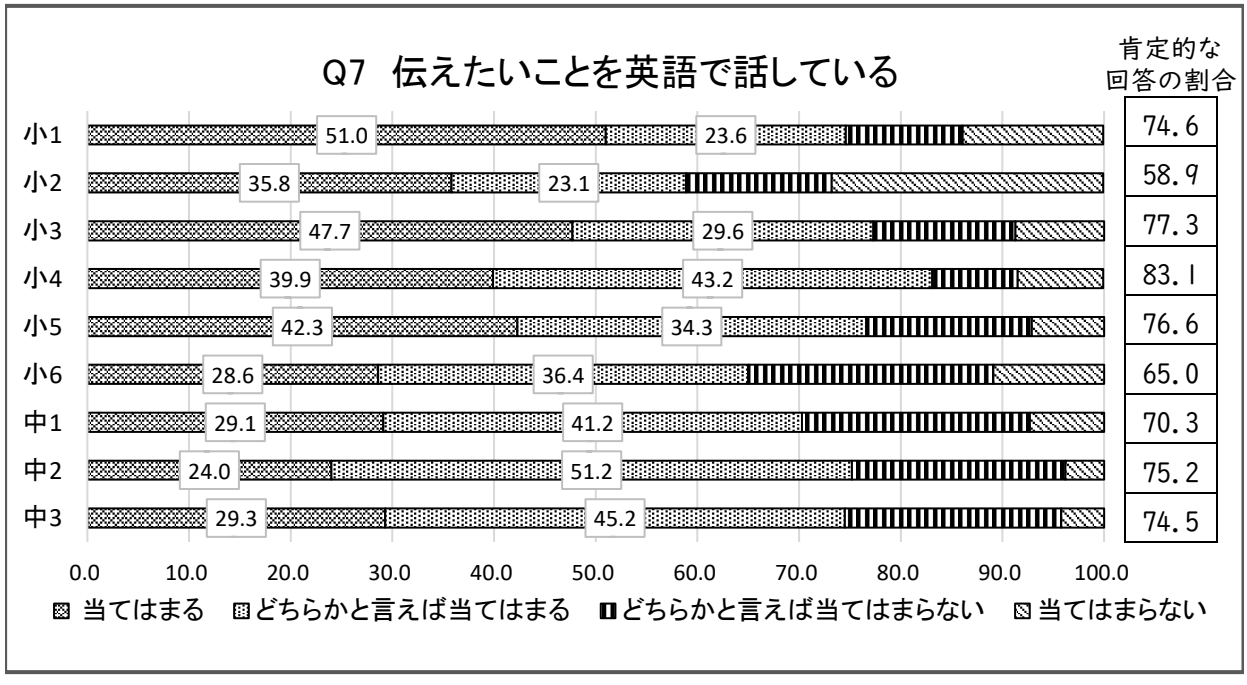


下の昨年度のグラフと比べて、ほとんどの学年で肯定的な意見の割合が低くなっている傾向がみられる。特に、小学2年生で「当てはまらない」の割合が2割程度存在している。

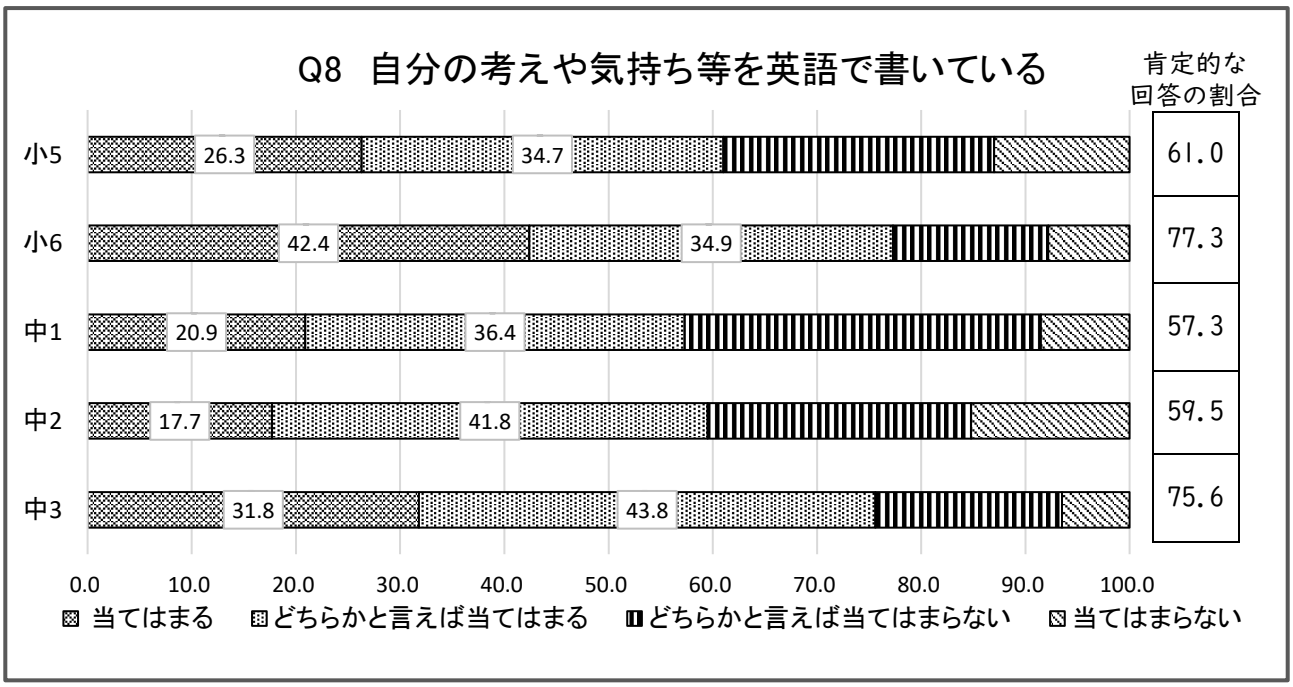
今後も学校における新しい生活様式の下で、児童生徒が興味をもち、英語を用いて伝え合いたいと思う具体的な場面を準備し、英語でのやり取りや発表を工夫していくことが大切である。また、学年が上がるにつれて、使える英語表現が増えることから、中学校においては、より積極的に自分の考えや思いを英語で話す機会を設定していく必要がある。

JAT（小学校英会話講師）と JET（中学校英会話講師）での情報交換や互見授業等を英会話科等定例会で行い、小学校と中学校の連携を図っていきたい。

（参考）令和３年度の結果

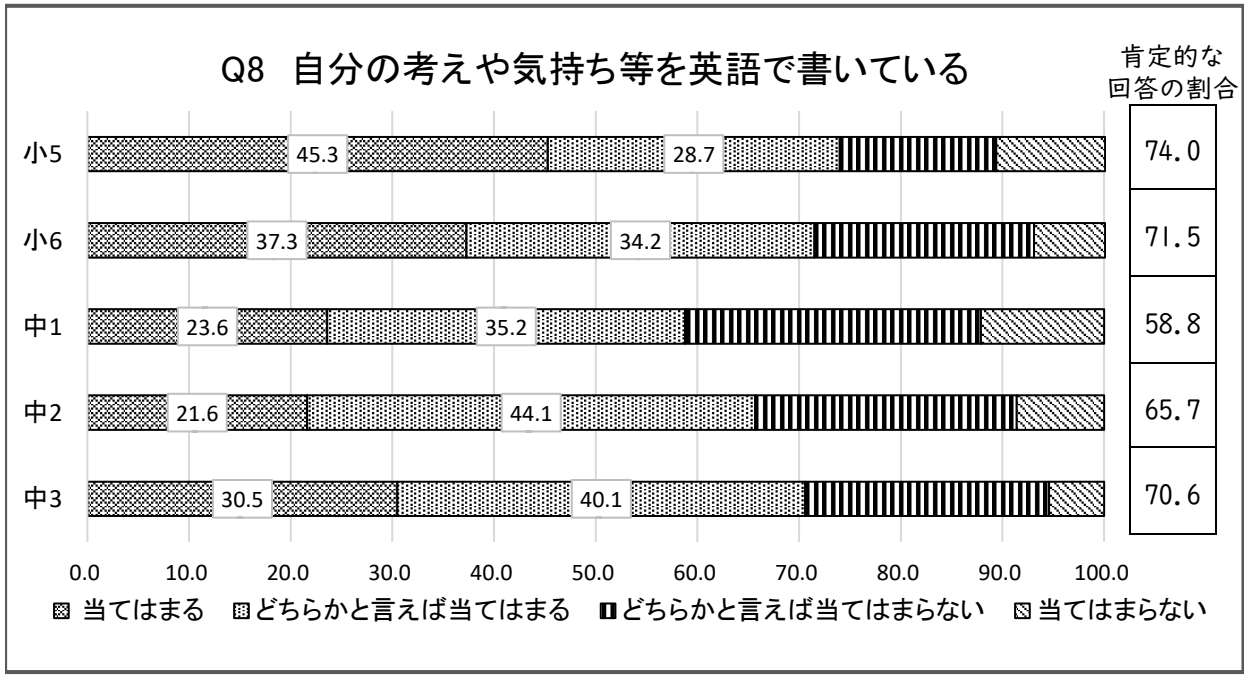


⑧　書くこと「自分の考えや気持ち等を英語で書いている」



肯定的な意見の割合は、小・中学校それぞれで学年間に差がみられる。下の昨年度のグラフと比較すると、小学6年生と中学3年生において、肯定的な意見の割合が5ポイント以上増えている。小学5年生から学習内容に「読むこと」「書くこと」の指導が入ってくるが、アンケートの①「英語の勉強は好きだ」の結果から考えられるように、5年生になると急に「英語が好きな児童」が少なくなる。「読む」「書く」活動が加わったことにより、「できる、できない」を意識する場面が増えることが要因の一つとなっているかもしれないということを考えると、小学校では、音声で十分に慣れ親しませた後に、相手に伝えるなどの目的をもって書き写すようにしていくことが大切である。中学校では、小学校とのスムーズな接続を図ることができるように、生徒の実態を把握し、小学校での学びを振り返りながら授業を進めていくことが必要である。

（参考）令和３年度の結果



⑨　英語の学習で身に付けたい力

「あなたは英語を使ってどんなことをできる力を付けたいですか（複数回答可）。」

結果のグラフは、「次のａ～ｇの中から当てはまるものをすべて選んで、○をつけてください」の問いに対して、○をつけた児童生徒の割合を、「付けたい力」ごとに学年別に表したものである。

ａ　国際社会で活躍できる力を付けたい

ｂ　海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい

ｃ　外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい

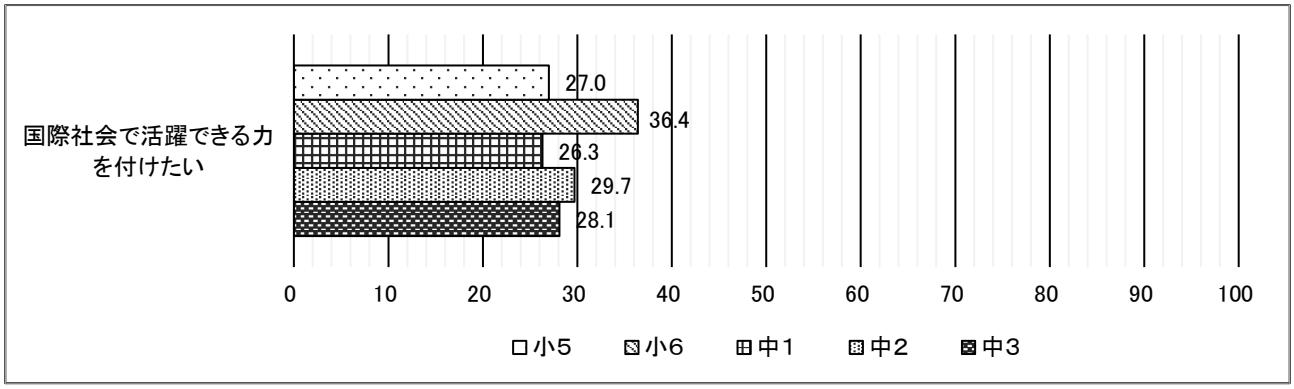
ｄ　高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい

ｅ　高校入試に対応できる力を付けたい

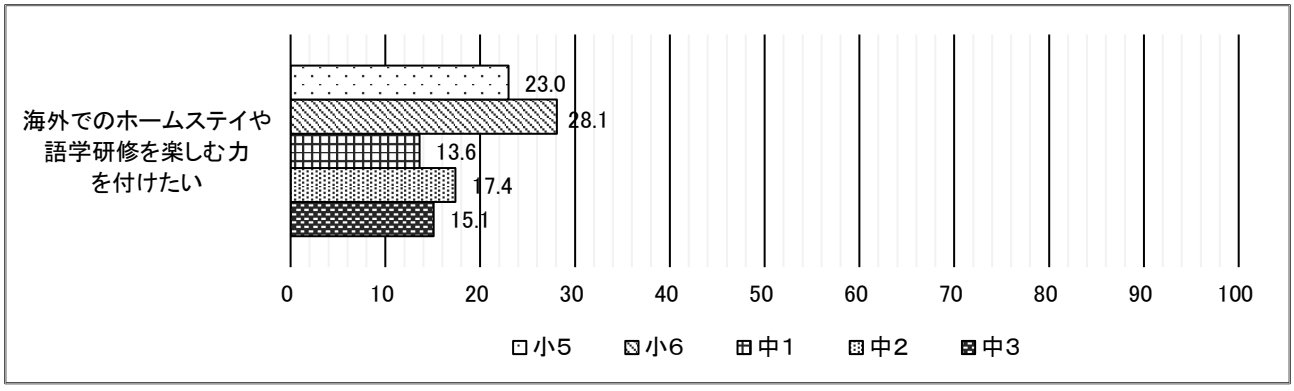
ｆ　英検やTOEIC等に対応できる力を付けたい

ｇ　その他

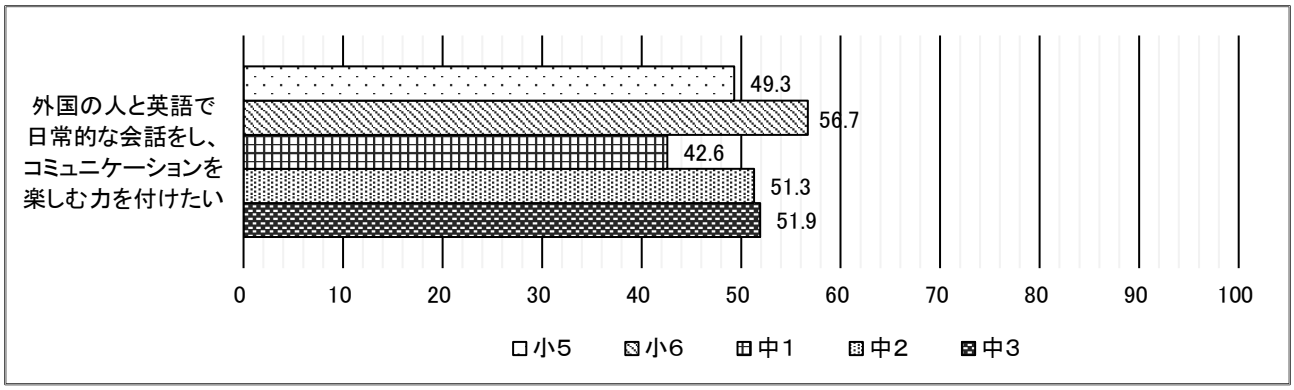
ａ　国際社会で活躍できる力を付けたい



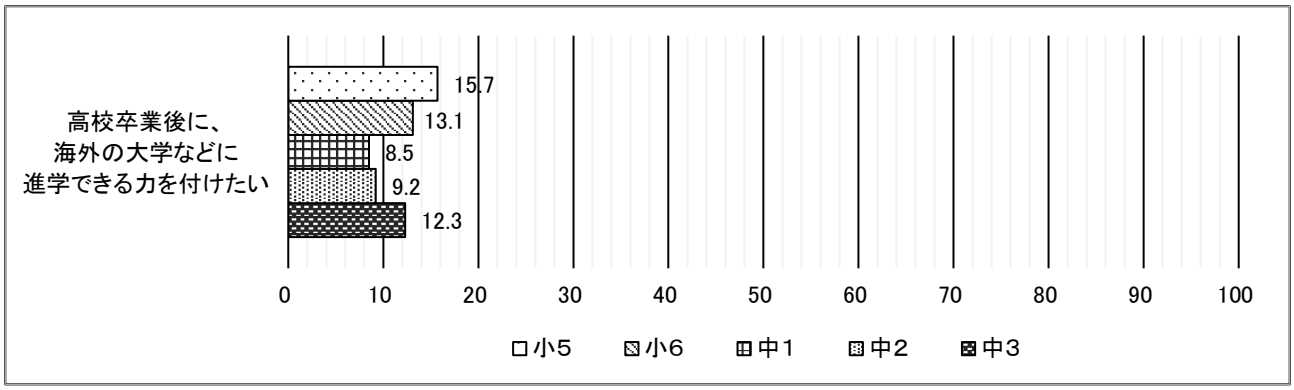
ｂ　海外でのホームステイや語学研修を楽しむ力を付けたい



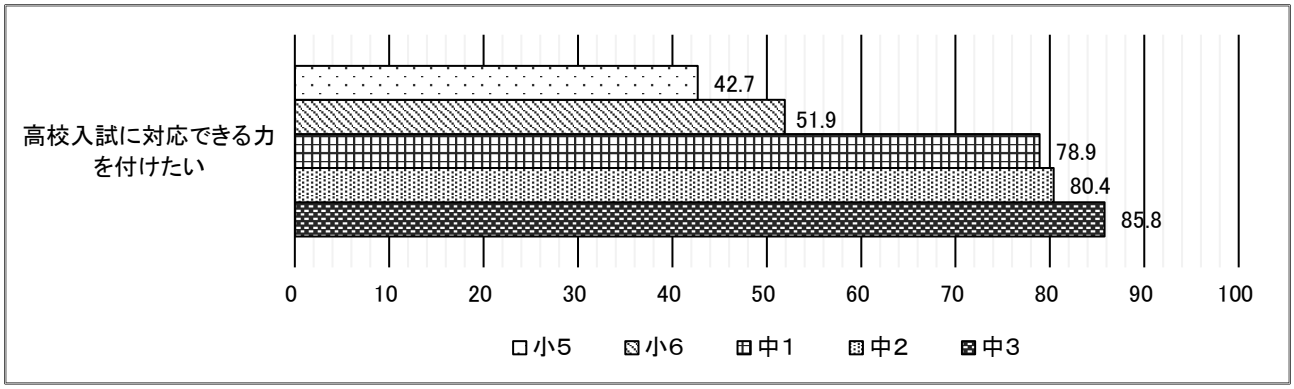
c　外国の人と、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力を付けたい



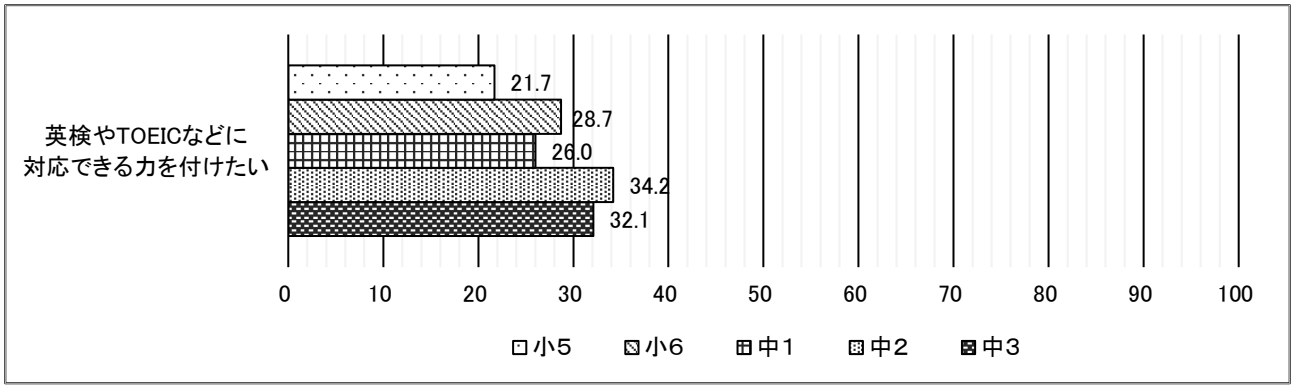
d　高校卒業後に、海外の大学等に進学できる力を付けたい



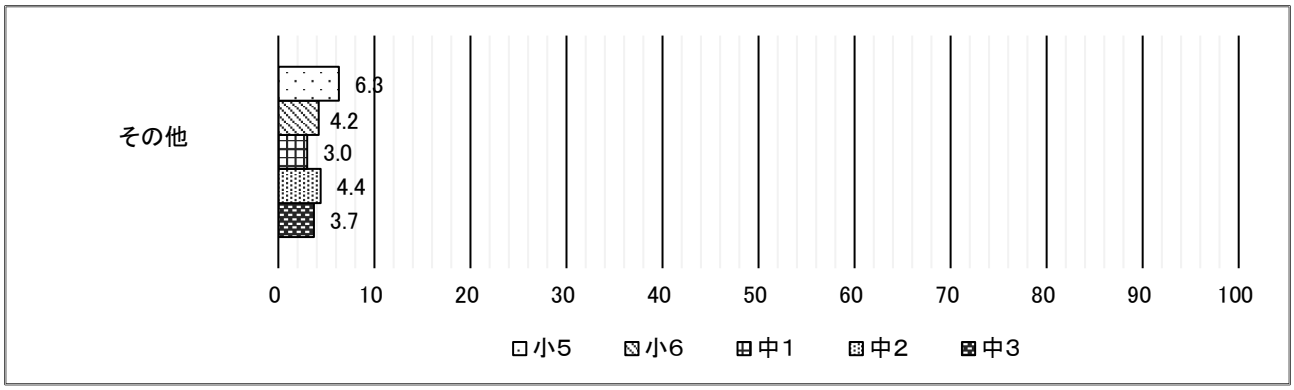
e　高校入試に対応できる力を付けたい



ｆ　英検や TOEIC 等に対応できる力を付けたい



ｇ　その他



その他の記入にあった主なもの

＜小学校＞

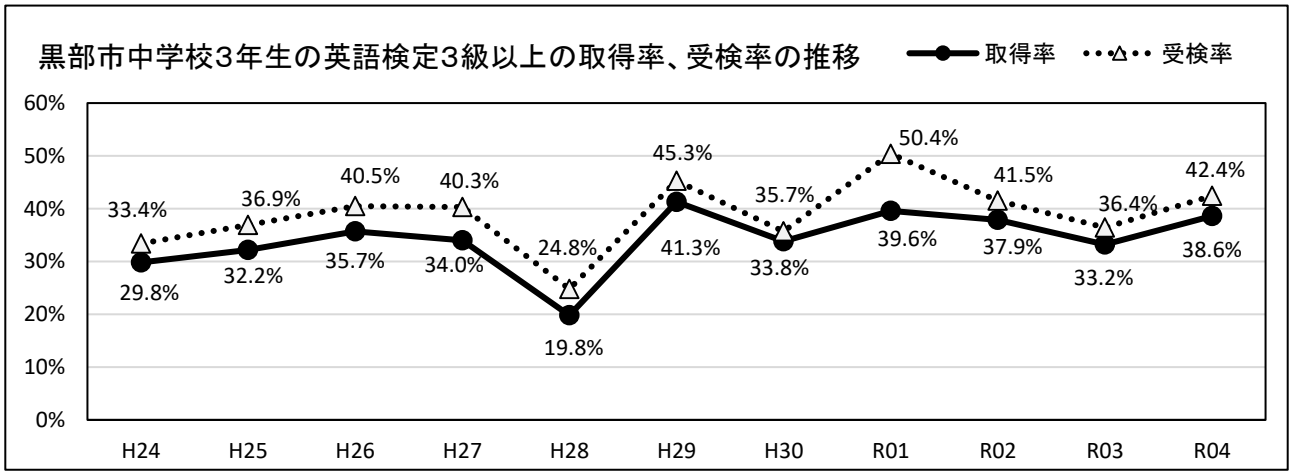
・外国人に道を教えることができる力を付けたい。
・海外の父の友達が来たとき、答えられる力を付けたい。
・海外旅行に行ったとき、少しでも話せるようになりたい。
・スポーツで海外に行くときに使いたい。
・質問されたら、英語で答えられる力をつけたい。
・外国の YouTube の内容が分かるようになりたい。

＜中学校＞

・英語の新聞や映画、本、音楽、サイト等が分かるようになりたい。
・日常生活の中で英語を話せるようになりたい。
・道案内の対応ができるようになりたい。
・職業に生かせる力を付けたい。
・英語で論文を書いたり、発表したりできるようになりたい。
・外国のゲームを楽しむために英語の力を付けたい。

２　英語検定３級以上の取得率、受検率等

(1)　黒部市中学校３年生の英語検定３級以上の取得率、受検率の推移

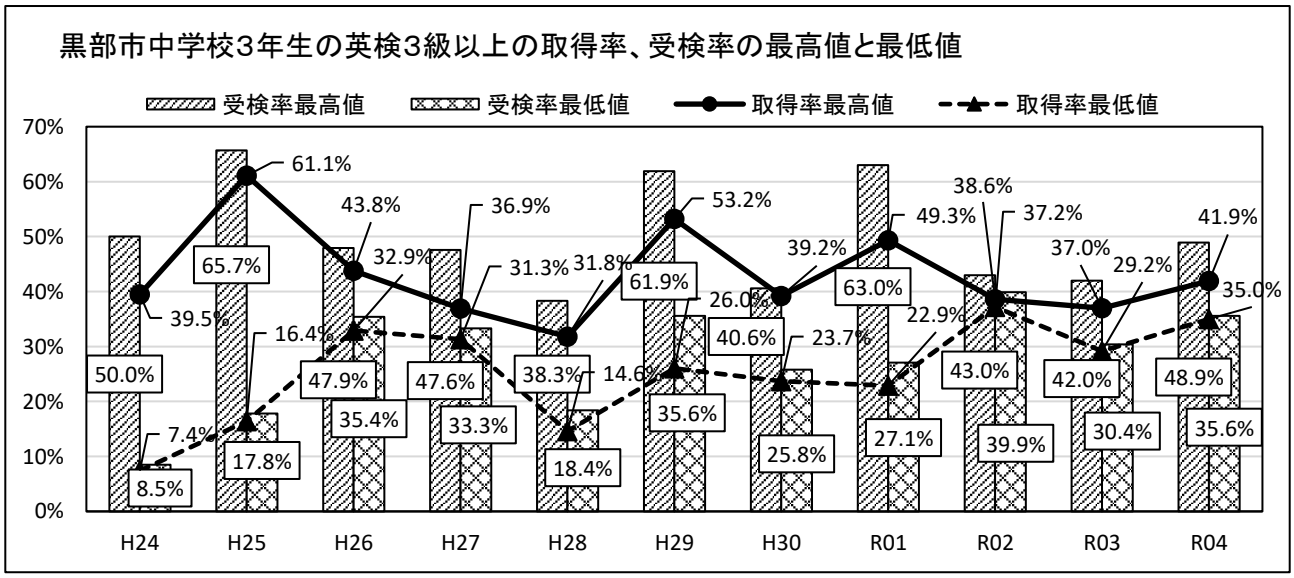


令和４年度の受検率42.4%であり、昨年度と比べ6ポイント高くなった。取得率は38.6%であり昨年度と比べ5.4ポイント高くなった。取得率、受検率ともに、過去３番目に高いポイントとなった。合格率（取得率/受検率）は昨年度91.3%、今年度90.9%で同程度だが、受検率の２校間の差がおよそ14.1ポイントあった。

取得率においては、第２次黒部市総合振興計画前期基本計画の中間目標（２０２２年）として設定した取得率45.0%を約６ポイント下回っている。取得率の達成には、受検率の更なる向上が必要だが、児童生徒と保護者を対象に取った英会話科等の学習に関するアンケートの中の「英語の学習で身に付けたい力（P1参照)」の質問では、１番目と２番目に多かった回答が「外国の人と英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しむ力」や「高校入試に対応できる力」であり、児童生徒・保護者の意識は、英検の取得にはあまり関心が高くないということが受検率が中々上がらない原因だと思われる。

(2)　市内中学校における取得率、受検率の学校間の差

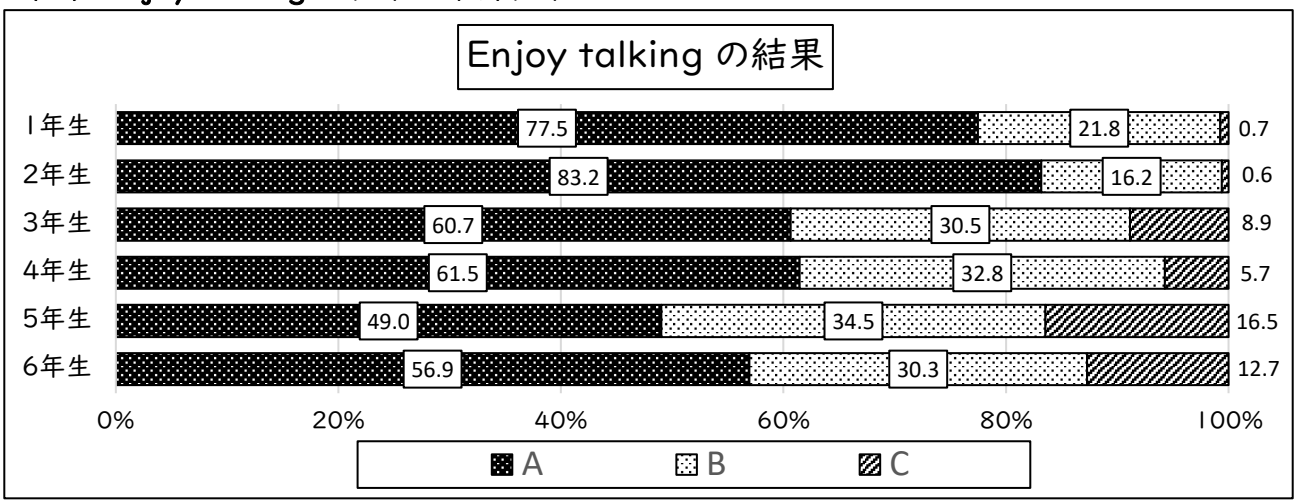
（令和元年度までは４中学校、令和２年度以降は２中学校）

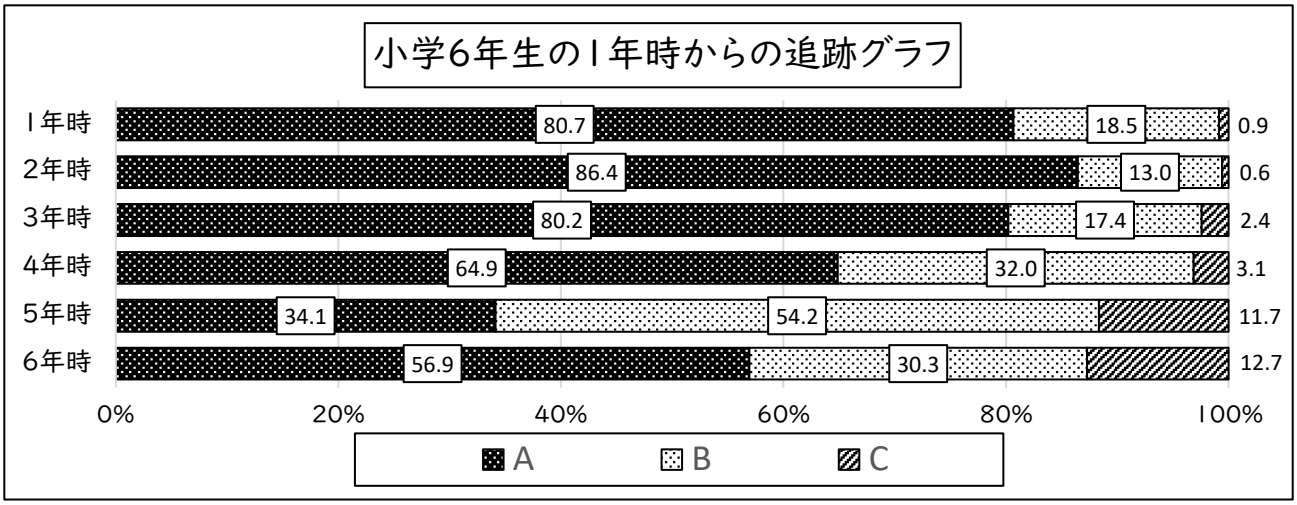


各中学校とも生徒への広報的な活動を継続的に行っているため、昨年度より受検率・取得率ともに向上したが、受検率においては学校間で差がみられた。

3　Enjoy talkingの結果

（1）Enjoy talkingの結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・1文や1、2語程度で	・1、2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句を使って答えることができない。
2	内容	ごく簡単な質問に対して		
	程度	・2往復程度で	・1文や1、2語程度で	・不適切な語を使ったり
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができない。
3	内容	気持ちや考え、絵カードの質問に対して		
	程度	・3往復以上で	・2往復程度で	・1文や1、2語程度以下で
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えることができる。	限られた質問にしか答えることができない。
4	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・3文以上で（自己紹介） ・3往復以上で（やり取り） ・適切な音量で	・2文程度で（自己紹介） ・2往復程度で（やり取り） ・適切な音量で	・1文以下で（自己紹介） ・1往復以下で（やり取り） ・1、2語程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
5	内容	自己紹介とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で（自己紹介） 4往復以上で（やり取り）	3文程度で（自己紹介） 3往復程度で（やり取り）	1、2文程度以下で（自己紹介） 1、2往復程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
6	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	4文以上で（発表） 4往復以上で（やり取り）	3文程度で（発表） 3往復程度で（やり取り）	1、2文程度以下で（発表） 1、2往復程度以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	適切な語句や表現を用いて答えつつ、質問を返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。

（２）Enjoy talking を実施してよかったと思われること（成果）

・元気よく、ALT と会話をしていた。
・相手の目を見て既習の英会話を話していた。
・学習した英語表現が定着しており、スムーズなやり取りができた。特に“What～do you like？〟に対して、問われたジャンルがばらばらでも即座に答えることができた。
・会話の様子から、ALT の質問に自然に答えている児童が多く、学習したことが身に付いていると感じた。
・うまく会話できたことで、英語で会話することの喜びや達成感を感じ取り、もっと上手になりたいという意欲をもたせることができた。
・内容を事前に確認し、練習したことで自信をもって受け答えすることができていた。ALT の答えを聞いてスムーズに会話する児童が多くおり、相づちを打つこともできた児童もいた。
・どの児童も、ALT と２人だけで会話をすることに不安をもつことなく、質問に答えたり、質問したりしながら、会話を繋げていた。ALT と共に継続して外国語活動に取り組んできた成果だと思われる。
・ALT に自分のことを伝えることができたことで達成感を感じている児童や次はもっとスムーズに言えるようになりたいと意欲を見せる児童が多くいた。児童にとって Enjoy talking の実施が学習の励みになっている。
・５学年の児童が ALT に尋ねた内容は様々で、自分が尋ねたいことを ALT に尋ねていた。学習した成果を発揮するよい機会となった。

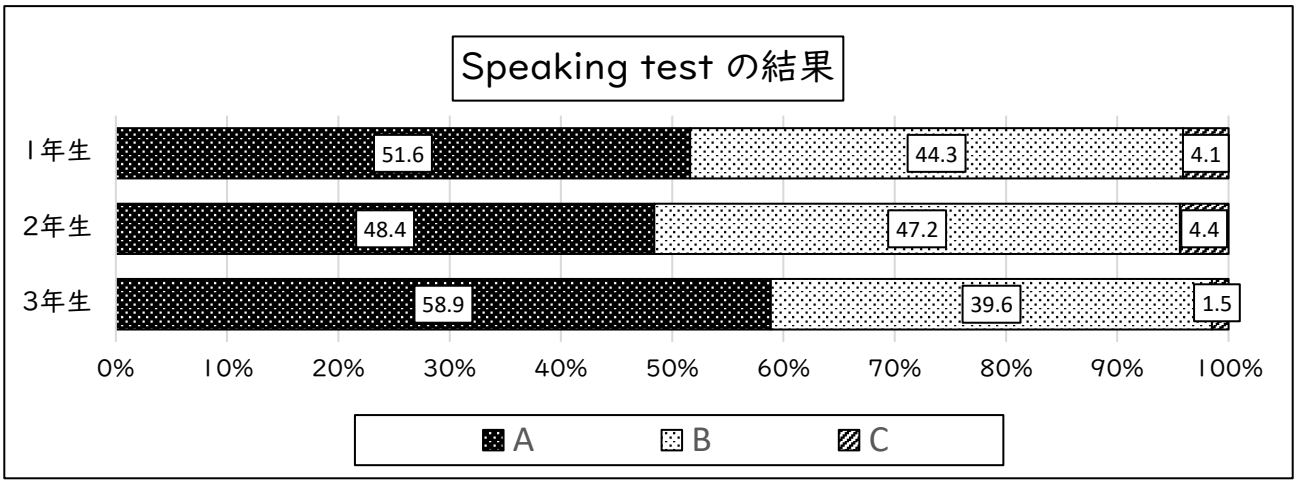
・There was good eye contact and students used big confident voices!（目と目を合わせて話すことができる児童が多くいた。自信をもって大きな声で話をしてくれていた。）
・Most students had good eye contact and spoke at a smooth pace. Most students were speaking at a good volume. They were respectful and did their best.（ほとんどの児童がアイコンタクトを取り、滑らかなに話していた。また、 ほとんどの児童が大きな声で話していた。子供らは一生懸命 Enjoy talking に取り組んでいたと思う。）
・Most of the students did the conversation perfectly. Those who didn't were able to recover well with a little help, and remember words they forgot without too many hints.（ほとんどの児童は英語で完璧に話していた。覚えていない人は、少し手助けすることでうまく会話を続けることができた。忘れていた単語についてもあまりこちらからヒントを出さなくても思い出すことができていた。）

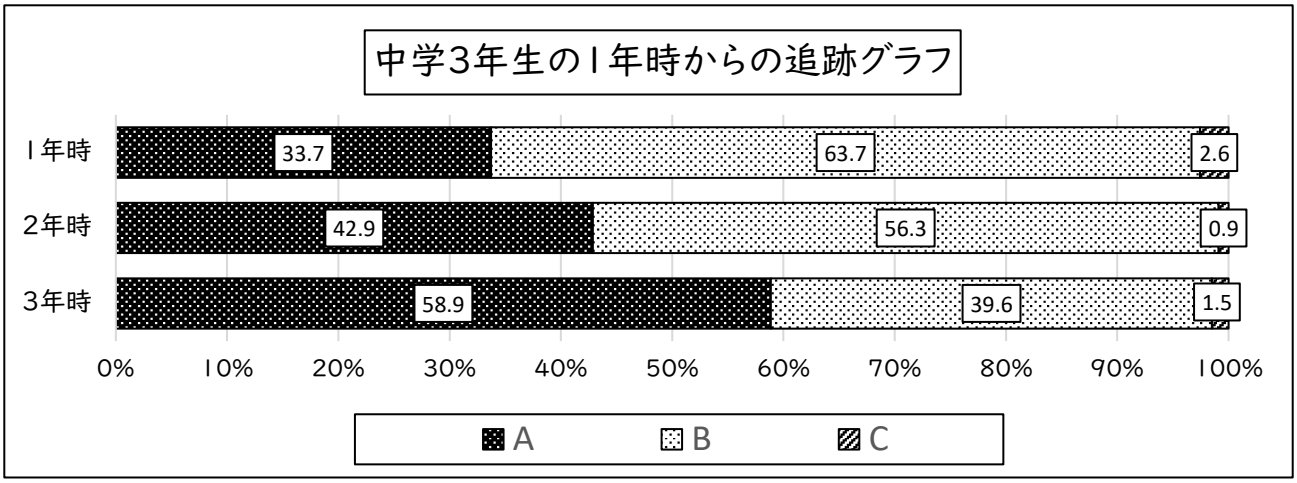
（３）今後、Enjoy talking を実施する際、改善が必要だと思われること（課題）

・マスクをしているので、声の小さい子供は、さらに聞き取りにくかった。
・質問をしっかり聞かずに答えてしまう児童がいた。
・質問の意味は理解していたが、答え方に小さな間違いが見られた。
・１対１の会話のため緊張している児童が多く、ジェスチャーが乏しかった。
・スムーズなやり取りはできるが、複数のｓを付けずに答える児童が過半数以上いた。授業の言語活動の中でｓを付ける言い方をもう少し練習する必要があった。
・英語に苦手意識をもっている児童が、英語でのコミュニケーションが楽しいと感じられるような言語活動を設定し、学習した英語表現を定着させていく工夫が必要である。
・会話のやり取りを楽しんではいるが、ALT や HRT の顔を見て会話を交わしたり挨拶をしたりする姿勢を身に付けることも大切だと感じた。
・評価（A・B・C）の判断に迷うことがあった。
・英語を話すことに自信がもてない児童もおり、正確に答えようとして、何をどう答えればよいかを考えすぎていたり、迷っていたりしている様子が見られた。
・英会話に苦手意識をもつ児童がいるため、児童同士の関わり合いを多くして、進んで取り組めるようにしたい。
・２桁以上の数の英語表現が定着していない児童が意外と多い。日頃から数の英語表現を意図的に使っていきたい。
・ゲームでは ALT や担任とは１対１でやり取りしているが、普段は基本的に集団で発音しており、今回のように１対１になると自信がないために口ごもる子供が多かった。
・返答までの反応は良かったものの、文章で答えず単語で返答をする児童が多かった。コミュニケーション能力は高いが英語表現の正確さは不十分であったといえる。また、時刻を答える際、13 と 30 の言い間違いが多かった。

4　Speaking test の結果

（１）Speaking test の結果の集計結果





学年		A	B	C
1	内容	自分の関心事や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・５文以上で（発表） ・５往復以上で（やり取り）	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）	・２文以下で（自己紹介） ・２往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて答えるなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。
2	内容	日常的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・４、５文程度で（発表） ・４、５往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３文以下で（自己紹介） ・３往復以下で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどのやり取りができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手に問い返すなどのやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また、質問に答えても、相手に問い返すことができない。
3	内容	社会的な話題や地域についての発表とその内容に対する質問に応じて		
	程度	・６文以上で（発表） ・６往復以上で（やり取り） ・適切な音量で※	・５、６文程度で（発表） ・５、６往復程度で（やり取り） ・適切な音量で※	・３、４文程度で（発表） ・３、４往復程度で（やり取り）
	対応	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちや考えを確かめるために質問をするなどを繰り返しながらやり取りを継続することができる。	適切な語句や文を用いて即興で答えつつ、相手の気持ちを確かめるために質問をするなどしながらやり取りができる。	限られた質問にしか答えることができない。また問い返すことができても、相手の気持ちを確かめるために質問をすることができない。

※グループにおけるやり取りの場合には、他のメンバーに聞こえる音量も基準とする。

（２）Speaking test を実施してよかったと思われること（成果）

・質問に答えるだけではなく、ALT に質問をする生徒の姿が見られた。
・自分が伝えたいことを、自分が知っている英語や身振り手振りで工夫して伝えることができた生徒がいた。
・ほとんどの生徒が適切に授業内で練習した表現を使用し、意味のあるやりとりができていた。
・ALT の質問や返事に自然な相づち等のリアクションをとることができる生徒が多かった。
・質問に答えるだけで終わらずに、ALT が段階を踏んだ質問をすることで、自然なやりとりを続けることができた。
・緊張はしていてもＡＬＴの質問をしっかり聞き、的確に受け答えできる生徒が多くいた。それは、生徒が小学校で受けた明るく楽しい英語授業に起因するものと考える。間違いを恐れず、周囲の目を必要以上に気にすることもなく、自分の考えをスッと表現できる生徒をさらに増やすために、今後も充実した授業を展開していこうと思う。
・単語１つだけでも言いたいことが十分伝わるケースが多いことを、ＡＬＴとの自由会話の活動を通して体験させるようにしてきたことで、スピーキング・テストでは緊張感をもち過ぎずにＡＬＴと自然な会話を行う生徒も増えてきたと感じた。
・スピーキング・テストの際も、あいさつやリアクションワードを含めながら、ＡＬＴと大変スムーズで自然な流れの会話ができている生徒が多いという印象をもった。また、"in the beginning"や"in the end"という、つなぎの言葉を用いながら、理路整然とストーリーの説明をする生徒が多く、ＡＬＴとＪＥＴは内容を理解しやすかった。
・黒部市に関する質問では、学習してきた黒部市紹介に関わる知識と表現を使って自分の意見を伝えることができた。
・誤った英文法や語彙を使用する生徒も見られたが、自分で修正したり、表現に困っても身振り手振りや知っている単語をつないだりするなどして、伝えたいことを伝えようと挑戦することができた生徒が多くいた。
・I was happy with the students who responded more naturally and made the test feel more like a conversation.（テストだが、自然な会話をするように話をしてくれる生徒が多くいて、うれしかった。）
・Some students were able to answer quickly and were able to answer difficult follow-up questions. （生徒の中には、質問に対してすぐに答えを返してくれる生徒がおり、更にその内容についての深い質問をすることができた。）
・Having tested this class for about a year, it's easy to see how they've progressed in English.（このクラスを約１年間テストした結果、英語の上達がよく分かる。）
・I often find myself pleasantly surprised at how well many students are able to express themselves in English, often bringing in topics and“turns of phrase”I didn't expect. They've really learned well!（多くの生徒が英語で自分自身をうまく表現でき、驚かされている。時々、ＡＬＴが予期していなかったトピックや「言い回し」で答えが返ってきて、子供らはとてもよく勉強していると思う。）

（３）課題（主なもの）

・対話するALTが聞き取れないような小さな声や、不明瞭な発音で話す生徒がいた。
・対話中に言葉に詰まった際、考え中であることを伝えられず、不自然に沈黙してしまう生徒がいた。
・聞きとれない、または聞き間違い、内容の理解ができない生徒がいた。
・対話中、相手と目を合わせられず、英語を使って話そうとする意欲の見られない生徒がいた。
・あらかじめ準備した原稿をただ丸暗記し、テストでそれを一気に発表して会話が一方通行になってしまう様子が多々見られた。そして、ＡＬＴの質問の内容が理解できず、長い沈黙の原因となっていた。
・全体的に英語を使って意味のあるやりとりをするということに慣れていない生徒が多いように感じた。授業で、学習内容の復習を行うとともに、話す練習の機会を多く与えていきたい。また、聞く力を付けられるようネイティヴスピーカーによる音声指導と、内容確認を伴った指導を意識していく必要性を感じた。コミュニケーションのよい取り方について体得できる指導の工夫をしていきたい。
・スピーキングテストを行うALTが日本語が堪能で、スピーキングテスト中に生徒が話した日本語の理解ができるために、生徒と日本語でやりとりをしてしまうことがあった。
・ALTは生徒が伝えようとしていることを英語を使って汲み取る態度を示すことを心がけていきたい。質問を優しい表現に言い換えて聞き直したり、答え方の例となる選択肢を質問の中に入れたりして、流れの止まった会話の中で発話しやすくなるように配慮したい。また、日本語でのやりとりにならないよう、英語だけでのやりとりを徹底して行いたい。
・Some students were nervous during the test which made the atmosphere feel less conversational as there were long pauses in between questions.（一部の生徒は、テスト中に緊張していたため、質問から答えるまでに間があり、会話の雰囲気が薄れてしまった。）

５　授業公開月間のまとめ

（１）　授業公開の概要

①　主催　　黒部国際化教育推進協議会

②　共催　　黒部市教育委員会、黒部市小中学校長会

③　目的　　英会話科等の授業を保護者や地区住民等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。

黒部国際化教育の基本方針

ア　他者に配慮したコミュニケーション能力を育てる
～英会話科等と日常的な英語活動の充実～

イ　魅力的な教育プログラムを実施する
～英語に対する学習意欲の向上～

ウ　自他の文化を尊重し、共生する態度を育てる
～地域ぐるみによる国際化教育の推進～

④　授業公開

○市内小学校の低・中・高学年で１コマずつ、中学校の一部の学級で授業を公開する。

＜小学校＞

・第１～２学年・・・ＡＬＴ（外国語指導助手)、ＨＲＴ（学級担任）による英会話の授業

・第３～６学年・・・専科教員またはＨＲＴ（学級担任)、ＡＬＴ（外国語指導助手)、ＪＡＴ（小学校英会話科講師）による外国語活動、外国語科の授業

＜中学校＞

・ＡＬＴ（外国語指導助手)、ＪＥＴ（中学校英会話講師）による英会話科の授業

⑤　公開日（令和４年 10 月 24 日～11 月 25 日）

生　地　小学校	11/2（１日）	桜　井　小学校	11/1（１日） 11/2（ＰＭ）
たかせ　小学校	10/26（学級閉鎖のため 11/17 に実施）	荻　生　小学校	今年度は、小学校教育課程研究集会の音楽部会（荻生小)、算数部会（若栗小）の研究推進校で、大会日と授業公開期間が重なっていたため、２校の負担軽減を考え、授業公開は行いませんでした。
石　田　小学校	11/11（１日） 11/14（ＡＭ）	若　栗　小学校	
村　椿　小学校	11/15（ＡＭ）	宇奈月　小学校	11/11（１日）
中　央　小学校	11/15（ＡＭ）		
清　明　中学校	11/17（１日）	明　峰　中学校	11/2（ＡＭ） 11/4（ＡＭ）

（２）　各小中学校の実践

黒部市立生地小学校



授業公開日　　令和４年１１月２日（水）

生地小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　2　　日　（　水　）　3　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　1　組
森山さおり、ステファニー・ヴィンシトレ

3　実践

(1)　テーマ　　ペットショップをつくろう

(2) 授業の様子

導入	展開
	
英語で挨拶をした後、“Seven Steps”を振りを付けて歌った。前時までに学習した英語表現を使って歌うことで学習への意欲付けができた。	今日の学習課題と目当てを示した後、7種類の動物の名前の英語表現を提示した。子供たちはALTの発音をよく聞いたり、まねたりしていた。

展開	終末
	
店員と客の会話表現を、全体で練習した後、教師が店員をし買い物ゲームを楽しんだ。子供たちは英語で何の動物がほしいかを伝え、たくさんの動物を集めた。一人一人が楽しいペットショップを作ろうと意欲的に取り組んだ。	全体で、自分の作ったペットショップを紹介し合った。動物の名前を聞いたり、英語で言えたりしたことを称賛した。

生地小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　2　　日　（ 水 ）　2　限

2　学年等・指導者　　第　4　学年　1　組
山田　香里、中村　容子、ステファニー・ヴィンシトレ

3　実践

(1)　テーマ　　何がほしいですか？

(2) 授業の様子

導入	展開
	
子供たちと挨拶をし、曜日、天気や時刻を尋ねた後に、本時の学習課題「自分のほしい野菜を伝えて、ピザを作ろう」を提示した。	野菜の名前やほしい物の尋ね方や答え方を復習し、客と店員に分かれてやりとりを練習した。

展開	終末
	
買い物ゲームをして、自分のほしい野菜を集めた後に、ピザの生地に野菜を貼りピザを作った。	できたピザを持ち友達に見せた後に、自分のピザに使った好きな野菜を“I like ～.”で伝え合った。教師が子供たちの学習の様子を評価したコメントを述べ、子供たちが本単元の感想を発表した。

生地小 学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　１１　月　　２　　日　（　水　）　１　限

２　学年等・指導者　　第　６　学年　１　組
山田　香里、中村　容子、ステファニー・ヴィンシトレ

３　実践

⑴　テーマ　　Lesson４ ものの様子や特徴、自分の気持ちなどを伝えよう

⑵ 授業の様子

導入	展開
	
子供たちと挨拶をし、様子や特徴を表す言葉を取り入れたスモールトークをした後に、本時の学習課題「様子や特徴を伝える言葉を使って動物クイズをしよう」を提示した。	カードで形容詞と体の部位の組み合わせを提示し、本時で使う英語表現の復習をした後、ALTが既習の形容詞を使い３ Hints Quizを出題した。追加のヒントがほしいときに使える質問の例を確認した。

展開	終末
	
よい例と悪い例を見てもらい、聞き手に伝わるようにするにはどうしたらよいか出題のポイントを確認した後に、ペアでの練習をした。	動物クイズをペアで出題した。答えが出るまで教師が質問をするなどして、クイズ大会を進めた。ねらいと照らし合わせ学習の成果を振り返り教師がコメントを述べた。

黒部市立たかせ学校



授業公開日　　令和４年１１月１５日（火）

たかせ小 学校　　英会話科等　実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　２　限

２　学年等・指導者　　第　１　学年　１　組
堂本美絵、エリン・カルボ

３　実践

⑴　テーマ　　フルーツケーキをつくろう

⑵ 授業の様子

Preparation(ウォーム・アップ)



HRT、ALTが児童一人一人とあいさつした。一対一で会話することで、授業への意欲が高まった。

Presentation(提示)



本時の学習課題を提示した後、指導者同士で言語活動のデモンストレーションを行った。児童は本時のゴールをイメージすることができた。

Practice(練習)

（写真なし）

本時に使う単語や文を学級全体で一斉に練習した。その後、児童はALTとHRTに欲しいフルーツを伝え、英語での会話を楽しんだ。

Production(振り返り・まとめ)

（写真なし）

児童の感想に「欲しいフルーツを伝えることができた。」「フルーツをもらって、すてきなケーキができた。」等があり、児童の達成感や今後の学習への意欲が伝わった。

たかせ小 学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　１１　月　１５　日　（ 火 ）　１　限

２　学年等・指導者　　第　３　学年　１　組
大森一美、エリン・カルボ 、 池田有里恵

３　実践

⑴　テーマ　　ほしい形と色を尋ねたり答えたりしよう

⑵ 授業の様子

導入

HRT JAT ALTと元気よく挨拶を交わしたり、ALTが今日の天気を尋ね、全体で答えたりすることで学習への雰囲気を高めた。その後、学習の目当てや活動の流れを確認し、見通しをもつことができた。

展開

色や形の言い方と欲しいカードを伝える場面での会話のやり取りを全体で練習した後、Hot Potatoゲームを行った。ゲームの楽しさを味わいながら、“What do you want” “〇〇,please”等の会話に進んで取り組んでいた。

展開
（写真なし）
子供たちは、これまでの学習を生かして「カード交換ゲーム」を行った。互いに欲しいカードを質問したり、答えたりしながら、たくさんの友達と会話をすることで、楽しみながら英語表現に慣れ親しむことができた。

終末

振り返りをカードに記入した後、数名の児童が楽しかったことなどの感想を発表した。その後、ALTやJATに今日の学習のよかったところを話してもらい、頑張りを認めてもらった。

たかせ 小学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　３　限

２　学年等・指導者　　第　５　学年　１　組
高森奈津樹、エリン・カルボ、池田有里恵

３　実践

⑴　テーマ　　I play soccer on Mondays.　月曜日には何をする？

⑵ 授業の様子

導入
（写真なし）
HRT、ALT、JATと挨拶をした。その後、天気、曜日、日付、時間の４つを質問し、児童が答えた。Phonicsとして、今回は「Z」についての発音を確認した。

展開

復習として、曜日と教科や“I have（教科）on（曜日）.”の言い方を確認した。また、２チーム対抗でのポイントゲームを行った。ALTの“When do you have （教科）?”の問いに時間割を見ながら、児童が答えた。

展開

「カード交換ゲーム」を行った。教科と曜日の書かれたカードを交換しながら、さらに教科と曜日の言い方に慣れるような活動を行った。たくさんの友達と交流しながら、英語表現に慣れ親しんだ。

終末
（写真なし）
振り返りをカードを記入した。その後、数名の児童が本時の感想等を発表した。ALTやJATから、本時のよかったことや難しかったこと等、がんばりを認めてもらった。

黒部市立石田小学校



授業公開日　　令和４年１１月１１日（金）
１１月１４日（月）

石田小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　14　日　（　月　）　2　限

2　学年等・指導者　　第　2　学年　1　組
横田光平、長谷川清見、アレクサンダー・フラー

3　実践

(1)　テーマ　　いろいろな形の宝石を集めよう

(2) 授業の様子

導入	展開
	
日直が中心となって英語で挨拶を交わした後、Hello Songを歌った。左右、前後など友達と向かい合って楽しく歌い、和やかな雰囲気で英会話の時間を始めた。 その後、本時の目当て「いろいろな形の宝石を集めよう」を提示した。	7種類の形の言い方について、ALTから詳しく教わった。特に難しいRectangleとsquareについては、繰り返し練習した。 その後、“Circle,please.”や“Here you are.”等、買い物の場面での会話のやりとりについても練習した。

展開	終末
	
買い物ゲームでは、いろいろな形の宝石を集めるために、積極的に英語で形を伝えたり、友達の話をしっかり聞き取って、英語で答えたりした。活動中、グループの友達と協力したり、客と店員役で、分からないことを教え合ったりしていた。	本時の学習で分かったことや、友達との会話の仕方でよかったところを発表し合った。ALTからも特に印象的だった協力の場面について紹介してもらい、HLTからは全体的によかったことを話し、次時への意欲付けとなった。

石田小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　11　日　（ 金 ）　2　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　1　組
髙崎祐華、アレクサンダー・フラー、鮫澤祐二

3　実践

(1)　テーマ　　カードを送ろう「This is for you」

(2) 授業の様子

導入	展開
	
HRTが欲しい物を尋ねALTが欲しい物の色と形を答えるSmall Talkをした後に、本時の課題「色、形を表す言葉を聞き分けられるようになろう」を提示した。	色、形を表す単語を全体で確認した。最初はWhite等の発音が日本語のホワイトのような感じだったがALTの発音を真似ながら直していく姿が見られた。

展開	終末
	
色、形のミッシングゲームを行った。児童が目をつぶっている間にALTが隠したカードを考え答える活動である。隠されたカードを探すことを楽しみながら、練習した色と形の言い方に慣れ、全体で再度確認することができた。	AlTが発音した色、形を聞いて、当てはまるカードを自分の机上から見付けるゲームを行った。色か形を聞き分け、カードを見付けていた。聞き取れなかった児童に他の児童が英語で再度伝える様子も見られた。

石田小 学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　11　日　（　金　）　５　限

２　学年等・指導者　　第　５　学年　１　組
中陣和代、アレクサンダー・フラー、鮫澤祐二

３　実践

⑴　テーマ　　月曜日には何をする？

⑵ 授業の様子

導入



本時のターゲット表現を含んだ会話をALTと行い、児童はメモをとりながら会話の内容を聞き取った。その後、グループで聞き取ったことを伝え合って内容を整理し、発表した。

展開



前時に学習した“What subject do you like? I like ～.”の表現を使ってインタビューゲームをした。制限時間内にできるだけたくさんの人とインタビューし合うことを目標に、積極的に会話を進める姿が多く見られた。

展開



ALTからグループへの「○曜日にどんな教科があるか」「○○（特定の教科）は何曜日にあるか」という２つの質問に対する答えを聞いて、他のグループの時間割を当てるゲームを行った。グループで答える練習をしたり聞き取って相談したりする活動を通して表現に親しんだ。

終末



振り返りシートに本時の目当てに対する自分のできばえを記入し、みんなで伝え合った。好きな教科を伝えたり、何曜日にどんな教科があるかを伝えたりすることについて、進んで取り組み、達成感をもった児童が多かった。

黒部市立村椿小学校



授業公開日　　令和４年11月15日（火）

村椿小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　2　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　1　組
山崎優菜、アレクサンダー・フラー

3　実践

(1) テーマ　　歩いて、走って、ジャンプしよう

(2) 授業の様子

導入



体を使って英語の歌“Hello Song”を歌って授業の雰囲気づくりをした後、本時の学習課題「うごきをあらわすことばをれんしゅうして、ジェスチャーゲームをしよう」を提示した。

展開



フラッシュカードを使いながら、walk, run, jump, stop, stand up, sit downの動きを表す言葉の発音を練習した。その後、ALTの言葉に合わせて、発音しながらジェスチャーの確認をし、表現に慣れていった。

展開



音楽を流しながら教室内を歩き、音楽が止まったら、近くの友達とジャンケンをして、勝ったら動きを表す言葉を言い、負けたらその言葉に合ったジェスチャーをするという活動を行った。児童は楽しみながら動きを表す英語表現に慣れ親しんでいた。

終末



本時の学習で難しかった言葉をもう一度練習した後、振り返りを行った。動きを表す言葉を覚えられたことを児童同士で認め合った。

村椿小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　3　限

2　学年等・指導者　　第　4　学年　1　組
澤田　季香、アレクサンダー･フラー、越後　真利子

3　実践

⑴ テーマ　　What do you want?　買い物をしてオリジナルピザを作ろう！

⑵ 授業の様子

導入



店での店員と客の会話のやり取りや、買ってきた具材（絵カード）でオリジナルピザを作って見せるというデモンストレーションをし、本時の学習課題「買い物をしてオリジナルピザを作ろう！」を提示した。

展開



絵カードを示しながらピザの具材の言い方を確認したり、買い物の場面での会話のやり取りを全体で練習したりした。

展開



買い物ごっこを行った。“What do you want?”や“I want ○○.”等の会話に進んで取り組み、ピザの材料となる野菜等（絵カード）を意欲的に集めた。

終末



集めた具材でオリジナルピザを作り、友達と紹介し合った。リアクションやジェスチャーを活用し、楽しく会話をしながら買い物をして、ピザ作りができたことを互いに称賛していた。

村椿小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　4　限

2　学年等・指導者　　第　5　学年　1　組
山本　千夏、アレクサンダー・フラー、越後　真利子

3　実践

(1) テーマ　　I play soccer on Mondays.　月曜日には何をする？

(2) 授業の様子

導入	展開
	
Small Talkでは、パノラマのイラストの場面や内容について、教師からの問いかけに答えながら、前時までの学習内容や既習表現を想起した後、本時の学習課題を確認した。	教科や曜日を表す単語や、時間割を尋ねたり答えたりする表現について確認し、練習した。

展開	終末
	
部分的に書かれた時間割について、友達とやり取りすることで情報を交換し、時間割を完成させるゲームを行った。“Thank you.”“My turn.”“One more, please.”など、リアクションワードを使いながら、相手を意識したやり取りができた。	児童が完成した時間割を曜日ごとに発表し、全員で確認した。学習の振り返りでは、「友達がメモをとるスピードに合わせて話した」など、相手を思いやったやり取りができた児童も見られた。

黒部市立中央小学校



授業公開日　　令和４年 11 月 15 日（火）

中央小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　3　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　2　組
髙見　実希、キャサリン・カウンツ

3　実践

(1)　テーマ　　どんなどうぶつがいるかな？

(2) 授業の様子

導入

児童と挨拶をし、コミュニケーション活動への意欲を高めた。そして、楽しい雰囲気になるよう、ジェスチャーを付けながら一緒に歌を歌った。その後本時の学習課題を提示し、活動内容を確認した。

展開

動物の英語表現を練習した。絵カードを提示し、ジェスチャーも交えて、既習の英語表現を確認しながら繰り返し練習に取り組んだ。

展開

ALTとHRTがデモンストレーションをしてやりとりする際の英語表現を全員で練習し、動物の絵カード集めゲームを行った。なかなか話しかけることができない児童やりとりに戸惑っている児童には、HRTが個別に声をかけて活動を促した。

終末

学習の成果を振り返り、ねらいに即して評価をした。児童に本時の感想を発表してもらい称賛した。

中央小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　2　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　2　組
荒川　佳帆、キャサリン・カウンツ、高階　真紀子

3　実践

(1)　テーマ　　Unit8 What’s this?　これはなあに？

(2) 授業の様子

導入



児童と挨拶をし、今の気分、曜日、今日の天気を尋ね、コミュニケーション活動への意欲を高めた。その後、本時の学習課題を提示し活動内容を確認した。

展開



これまでの学習の復習を行った後、果物や動物のイラストが入った封筒を配布した。そしてペアでクイズを出し合った。
児童はわくわくした様子で、クイズ大会への意欲を高めていた。

展開



果物や動物のイラストが入った封筒を交換し、全員でクイズ大会を行った。楽しそうにクイズを出し合っていた。ALT、JAT、HRTもクイズに参加し、クイズの作成が難しい児童も意欲的に参加できるように、支援した。

終末



学習の振り返りは、ロイロノートを活用して行った。これまでの振り返りカードもロイロノートに残っているため、全ての児童が自分の学びを実感することができた。

中央小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　15　日　（ 火 ）　4　限

2　学年等・指導者　　第　6　学年　2　組
山田　香里、キャサリン・カウンツ、高階　真紀子

3　実践

(1)　テーマ　　Lesson 4　ものの様子や特徴、自分の気持ちなどを伝えよう

(2) 授業の様子

導入	展開
	
児童と挨拶をし、曜日、天気、時刻と日付を尋ね、コミュニケーション活動への意欲を高めた。その後、本時の学習課題を提示し活動内容を確認した。	クイズで使う英語表現を復習し、既習の形容詞を使いキャラクターを当てる３Hints Quizを行った。児童は近くの友達と相談をして答えを考えた。

展開	終末
	
ALTとJATがデモンストレーションをして発表をする際のポイントを確認した後にペアまたは３人グループで練習をして動物クイズを行った。答えがなかなか出ないときには質問をしてヒントを引き出すように促した。	学習の成果を振り返り、ねらいに即して評価をした。児童に本時の感想を発表してもらい称賛した。

黒部市立桜井小学校



授業公開日　　令和４年 11 月１日（火）
11 月２日（水）

桜井小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　2　　日　（ 火 ）　5　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　2　組
吉野　美世子、キャサリン・カウンツ

3　実践

(1)　テーマ　　フルーツケーキをつくろう

(2) 授業の様子

導入	展開
	
はじめの挨拶をして、自分の気分を伝えた後、ジェスチャーも入れながら“happy fruit”の曲を元気に歌った。楽しく歌うことで緊張がほぐれ、リラックスした気持ちで授業を始めることにつながった。	本時の学習の目当てと流れを確認した後、HRTとALTがカードを使ってフルーツケーキを作っていくデモンストレーションを行った。子供たちは 興味をもって聞き、活動への見通しをもった。

展開	終末
	
「買い物ゲーム」では、客になったり店員になったりしながら、楽しく会話していた。果物の言い方を忘れた友達に「grapesだよ」などと教え合う姿も見られた。	子供たちは、でき上がったフルーツケーキを紹介しながら、がんばったことや嬉しかったこと等を発表し合った。HRTは、子供たちのがんばりを褒め、次時への意欲を高めるようにした。

桜井小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　1　　日　（　火　）　5　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　1　組
館野遥香、サマンサ・ラン、平野智恵

3　実践

(1)　テーマ　　アルファベットとなかよし

(2) 授業の様子

導入



ALTとJATのSmall Talkから、今日の活動を予想させた後、学習課題を提示した。自分の名前のスペルが書かれたワークシートを配り、どのアルファベットを集める必要があるか見通しをもたせ、アルファベットの発音練習に意欲をもたせた。

展開



ABCsongで発音の復習をした。指定した色のアルファベットで手を叩くというルールで行い、文字と音を一致させて練習ができた。不安のあるアルファベットはないか子供たちに尋ね、重点的に練習し、買い物ゲームへの不安を和らげた。

展開



子供がお店やさんとお客さんになり、やりとりを行った。「Z」の発音が分からず困っていた子供は、ALTに発音の仕方を尋ね、練習した。その後ALTが見守る中、自信をもって「Z」を伝えることができた。

終末



振り返りでは、自分の集めたアルファベットや感想を紹介し合った。今日の活動についてALTやJATからの賞賛の言葉をもらった。子供たちは上達を実感し、アルファベットで名前を作る楽しさを味わった。

桜井小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　1　　日　（　火　）　2　限

2　学年等・指導者　　第　5　学年　1　組
朝倉真樹子、サマンサ・ラン、平野智恵

3　実践

(1)　テーマ　　I get up at 7:00.　一日の生活

(2) 授業の様子

導入



挨拶をしたり、日付や時刻等について尋ねたりすることで学習する雰囲気をつくった。前時に学習した表現を復習し、本時の学習につなげることができた。

展開



ALTとJATによるデモンストレーションを見ることで、本時の活動の進め方を確認した。さらに、デモンストレーションに動きを付けながら示すことで、進め方を理解し、見通しをもつことができた。

展開



本時の活動で用いる表現を全体で練習した後、インタビュー活動に取り組んだ。「友達がアイコンタクトをしてくれてうれしかった」と振り返りに書く児童がいるなど、相手を意識するやり取りが見られた。

終末



活動後には、多くの友達とやり取りしていた姿をALTから評価してもらった。児童の振り返りには、「前時よりもやり取りがスムーズに進んだ」、「活動前に立てた目標を達成できた」といった記述が多く、活動を通して達成感を味わうことができた。

黒部市立宇奈月小学校



授業公開日　　令和４年 11 月 11 日（金）

宇奈月小学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　11　日　（　金　）　５　限

２　学年等・指導者　　第　１　学年　１　組
髙澤　光、ステファニー・ビンチトーレ

３　実践

⑴　テーマ　　どんな動物がいるかな？

⑵ 授業の様子

導入	展開
	
はじめに、動物の絵カードを示して発音練習をした。次に、動物の動きを表すジェスチャーを交えながら発話を繰り返すことで、子供たちは、英語表現と絵カードが結び付けながら導入の活動を行うことができた。	ALTが発話する表現を集中して聞き、何を表しているかを判断する「マジックワードゲーム」を行った。他のテーマでも慣れ親しんでいるゲームを行うことで、子供たちは動物の英語表現に慣れ親しむことができた。
展開	終末
	
「ペットショップを作ろう」の活動では、各自がほしい動物を集めたペットショップを作ることを目当てにした。子供たちは、直前に慣れ親しんだ表現を活用し、積極的にALTやHRTとコミュニケーションを取りながら会話を行っていた。	まずはペアで活動を振り返り、思いを伝え合った。次に全体の場で、学んだことを共有し合った。ペア活動の場をもつことで、全ての子供が自分の活動を振り返ることができ、全体の場では、友達の思いに共感することができた。

宇奈月小学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　11　日　（　金　）　３　限

2　学年等・指導者　　第　３　学年　１　組
朝倉真樹子、ステファニー・ビンチトーレ、中村容子

3　実践

(1)　テーマ　　アルファベットとなかよし

(2) 授業の様子

導入	展開
	
はじめに、指導者が身振り手振りを交えながら英語でのデモンストレーションを見せた。デモンストレーション後に「そういうことか」とつぶやく児童もおり、日本語での説明を介さずに、英語を聞いて理解することにつながった。	ほしい大文字カードを伝える英語でのやり取りを全体で練習した後、実際に活動を行った。“～, please.”や“Thank you.”など、各自の目標を意識しながら指導者と会話しながら、必要な大文字カードを集めていた。
展開	終末
	
事前に、友達とのやり取りの中でよいところを見つけるように伝えた。活動の中間評価では、紹介された児童によるやり取りを手本として見せることで、広めたい姿を全体で共有し、後半の活動につなげることができた。	各自の目標や本時のねらいをもとに、活動の振り返りを行った。「友達のやり取りを参考にして自分もジェスチャーを取り入れた」と振り返る児童がいるなど、互いに学び合っていたことが伺えた。

宇奈月小 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　11　日　（ 金 ）　4　限

2　学年等・指導者　　第　6　学年　1　組
島瀬容子、ステファニー・ビンチトーレ、中村容子

3　実践

(1)　テーマ　　Lesson５　It was green.

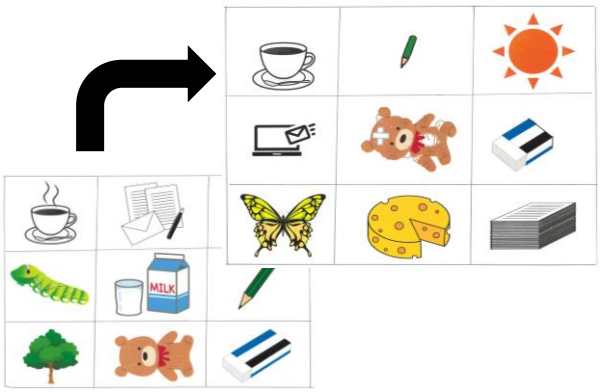
(2) 授業の様子

導入



校庭の樹木が紅葉したことについて、“It is red.→ It was green.”と導入した。その際、絵カードを見せて月を遡り、当時の活動の様子が分かる写真も提示した。児童は、自分たちの懐かしい写真を見たことで「過去」の感覚を理解していた。

展開



「過去」と「現在」の感覚が理解できたところで、ゲームで使う単語をペアにして提示した。児童は絵カードを見ながら推測し、“It was new. It is old.”等、自分たちで英語表現を考え、自分たちの力で発話していった。

展開



表現に慣れ親しむ活動として、マッチングゲームを行った。カードをめくりながら英文を声に出していく際には、ペアの友達と互いに教え合う姿が見られた。

終末



教科書の“Panorama”を用いて、本時の表現を使ってどのようなことが言えるかをペアで考えた。児童は、自分たちで発見した変化について、過去形と現在形を適切に使い分けながら積極的に発表することができた。

黒部市立清明中学校



授業公開日　　令和４年１１月１７日（木）

清明中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　17　日　（ 木 ）　2　限

2　学年等・指導者　　第　1　学年　1　組
道用裕志、エリン・カルヴォ

3　実践

(1)　テーマ　　Let's Talk about Kurobe! (黒部について語ろう！)

(2) 授業の様子

導入

指導者同士のSmall Talkで、黒部の好きな場所について、理由を示しながらデモンストレーションした。生徒は内容を正確に聞き取ろうと、メモを取りながら真剣に耳を傾けていた。

展開

自分が是非勧めたい黒部のスポットを、理由とともに一つ決め、友達や指導者と伝え合った。決められた時間内でできるだけたくさんの人から情報を得るように、生徒は一生懸命メモを取りながら活動していた。

展開

生徒は、会話の内容がさらに深まるように、主にwhatやwhy等の疑問詞を用いたFollow-up Questionsを意識し、それらを積極的に会話の中に取り入れていた。

終末

伝えたかったのにどう表現すればよかったのか分からず、結果的に相手に分かってもらえなかったことを学級全体で共有した。「行ったことがあるかどうか」や「そこでは何ができるか」の表現を知りたかったという意見があった。

清明中 学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　17　日　（ 木 ）　１　限

２　学年等・指導者　　第　２　学年　１　組
道用裕志、エリン・カルヴォ

３　実践

(1)　テーマ　　Let's get to know more about Kurobe! (黒部のよさを再発見しよう！)

(2) 授業の様子

導入

指導者同士がSmall Talkによるデモンストレーションを行い、黒部の好きなところをお互いに紹介し合った。生徒は聞き取った内容を発表した。本時はクイズ形式で黒部のよさを再発見することを伝えた。

展開

本時で扱う「黒部クイズ」をテレビ画面に映し、グループで話し合いながら答えを考えて発表した。生徒は真剣にテレビ画面を見て、意見を出し合いながら正しい答えを導き出そうとしていた。

展開

メンバー全員で声を合わせて答えを発表することで、どの生徒も自信をもって積極的に英語を発音しようとしていた。他のグループの生徒も、テレビ画面を見て真剣に答えを考えていた。

終末

クイズを通して新たに学んだ黒部の観光スポットや文化について振り返った。「黒部市に住んでいても詳しく知らなかった」と、改めて黒部のよさに気付いた生徒が多かった。

黒部市立明峰中学校



授業公開日　　令和４年１１月２日（水）
１１月４日（金）

明峰中 学校　　英会話科等実践のまとめ

１　授業公開日　　11　月　　２　　日　（　水　）　２　限

２　学年等・指導者　　第　１　学年　４　組
橘　純子、　マクシミリアン・ハバウアー

３　実践

⑴　テーマ　　Our Town Kurobe

⑵ 授業の様子

導入	展開
	
全体で挨拶を行った後、ＡＬＴの週末の出来事についての話を聞いた。黒部市でのお気に入りの場所について前回の授業の復習をした後、ペアでそれぞれの黒部市のお気に入りの場所について話をした。	本時の学習課題を確認した後、前回の授業の復習をし、チャンツのリズムをとりながら全体で表現の確認をした。スピードを上げることでよりやりがいのあるリピート練習をすることができた。

展開	終末
	
ワークシートを使い、黒部市でしてみたいこととそれに対するお勧めの場所を考えながら、ペアで伝え合う会話活動を行った。表現の練習にチャンツを取り入れるなど、様々な練習の機会をもつことにより、自信をもって会話をすることができた。	「黒部市でしたいこと」に対して数名の生徒がお勧めを考え発表した。お祭りを楽しみたい等のリクエストに対して、即興でお勧めを発表することができた。

明峰中 学校　　英会話科等実践のまとめ

1　授業公開日　　11　月　　4　　日　（　金　）　2　限

2　学年等・指導者　　第　3　学年　5　組
橘　純子、　マーク・ホルンヤック

3　実践

(1)　テーマ　　My special one-day tour of Kurobe

(2) 授業の様子

導入



　全体で挨拶を行った後、ＡＬＴの週末の出来事についての話を聞いた。空いた時間の過ごし方や、最近夢中になっていることについてペアで話をした。身近な話題を取り扱うことで、生徒は楽しい雰囲気で活動することができた。

展開



　本時の課題を提示し、ＪＥＴとＡＬＴで活動のデモンストレーションを行った。前回の授業で習った提案の英語表現を復習し、本時の活動の準備をした。活動の前に練習の機会を設けることで自信をもって取り組むことができた。

展開



　これまでの授業で組み立てた黒部のツアーを場所ごとにペアで発表し合った。
　提案の表現を使いながら、ペアに向けて場所ごとにアドバイスを考えて伝えた。その後、より魅力的なツアーになるよう自分のツアーに修正を加えた。

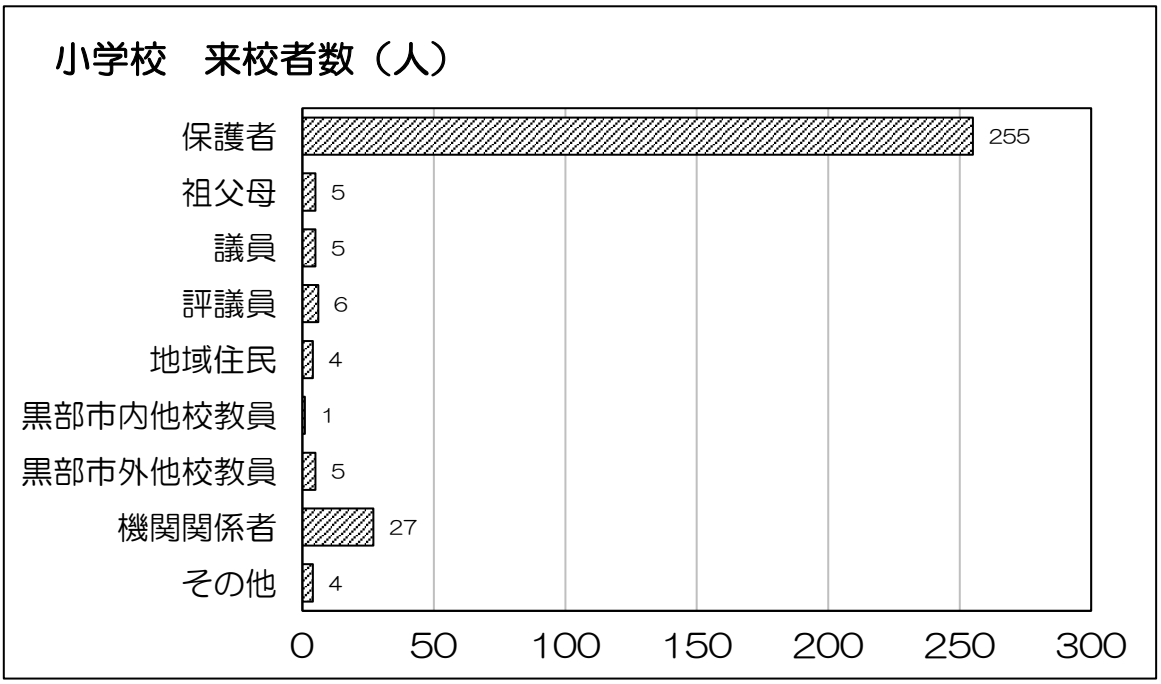
終末

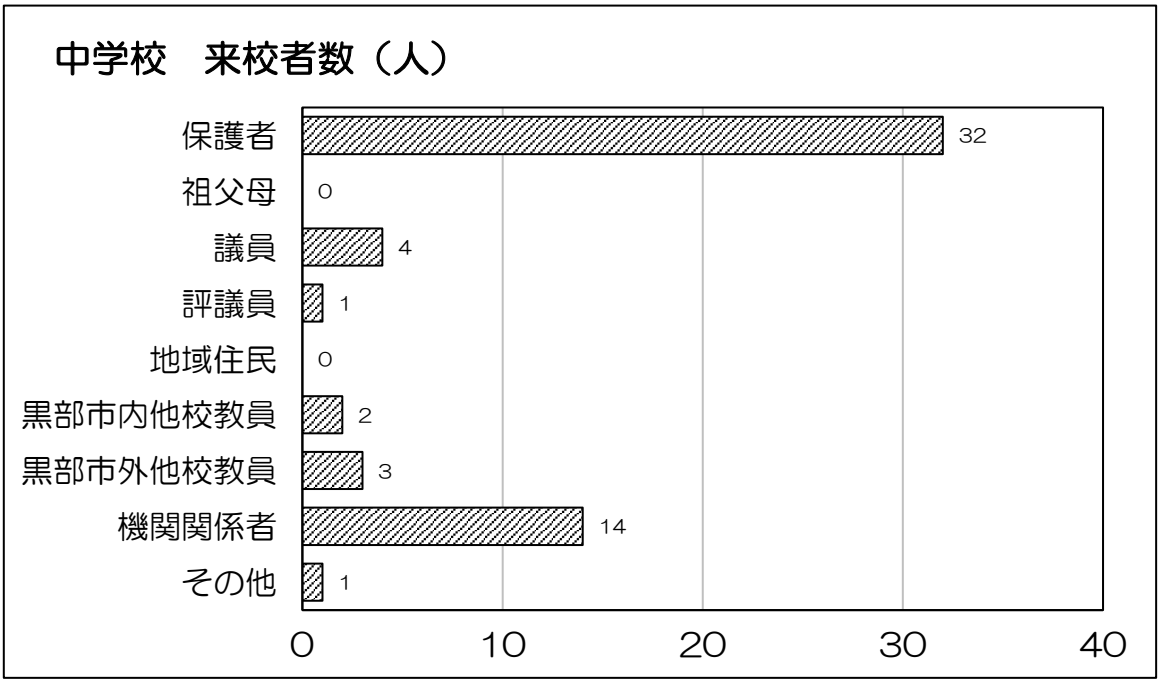


　何人かの生徒がペアに対してどの場所で、どのような提案をしたかを全体に発表した。自分たちが考えた黒部ツアーに対し、お互いのツアーがよりよいものになるように提案し合い、修正を加え、よりよいツアーに仕上げることができた。

（３）　来校者数

今年度は、コロナ禍ということで小学校の低・中・高学年で１コマずつと、中学校の５学級と限定して授業公開を行った。また、授業公開の参観対象を授業公開学級の保護者、市内他校教員、市外他校教員、機関関係者、評議員、議員とし、地域住民への一般公開は行わなかった。そのため、過去の来校者数と比べると少なくなっている。しかし、授業参観と英会話科等授業公開日を同じ日にする等の工夫をされた学校も多くあり、小学校、中学校ともに、英会話科等の実際を知っていただくよい機会となった。



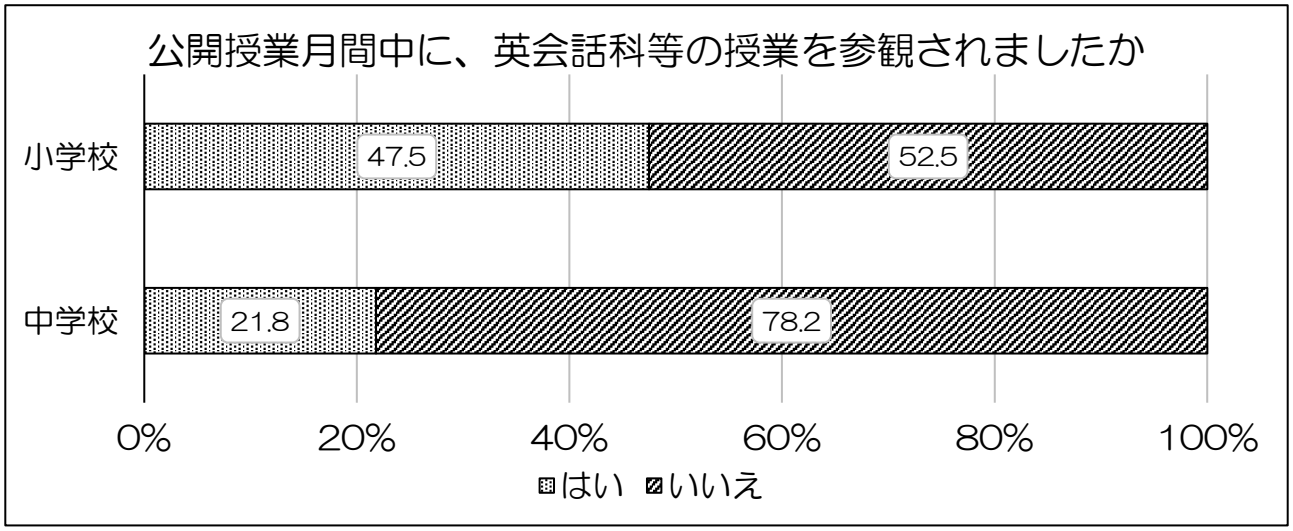


（4）　保護者アンケートの結果

授業公開後に、授業公開を行った小・中学校の全保護者に対してアンケート調査を行った。「Ⅰ英会話科等の取組における成果と課題　１英会話科等の学習に関するアンケート結果　（１）英語の学習で身に付けたい力」でも結果を紹介したが、ここでは、他の質問項目に対する回答を紹介する。

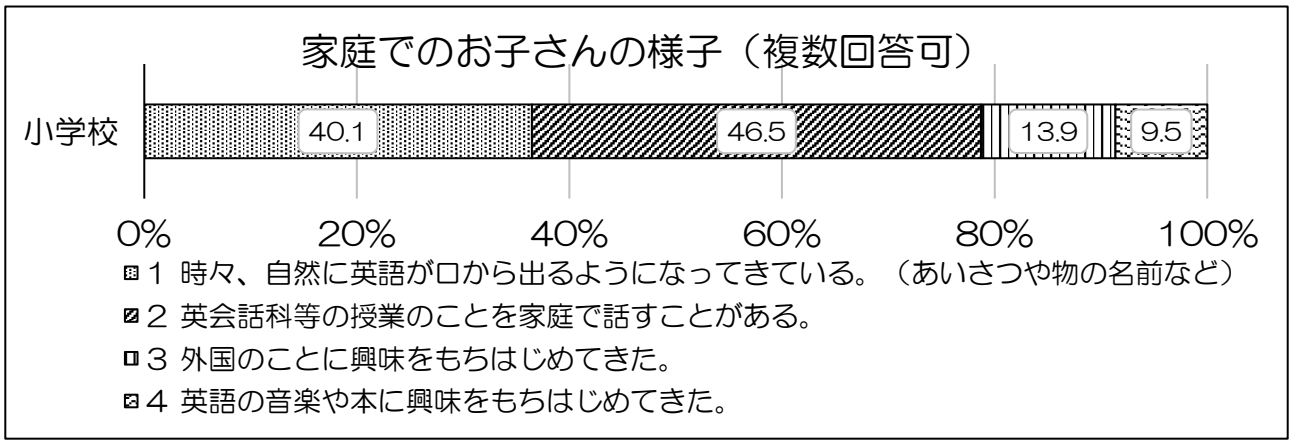
回答率は、小学校で８３％、中学校で８２％であった。英会話科等の取組に対する肯定的な意見が多くみられた。

①　公開授業月間中に、英会話科等の授業を参観されましたか。



※　上記グラフは、授業公開を行った学級（小学校２１学級、中学校５学級）についての結果である。

②　家庭でのお子さんの様子について（小学校のみ）



【家庭での変化】（④の自由記述より）

・家に帰ってから「タオル、プリーズ」など子供が使えるところで英語を話してくれたので、うれしかった。

・家で英語の質問をされたことがあり、英語を楽しんでいると思う。

・自分の子供２人が高志野中学校時代、高校に進学した際に言われたのが「英語の発音がよいので、英語弁論大会に出てほしい」とのことだった。

（５）　教員のアンケートの結果

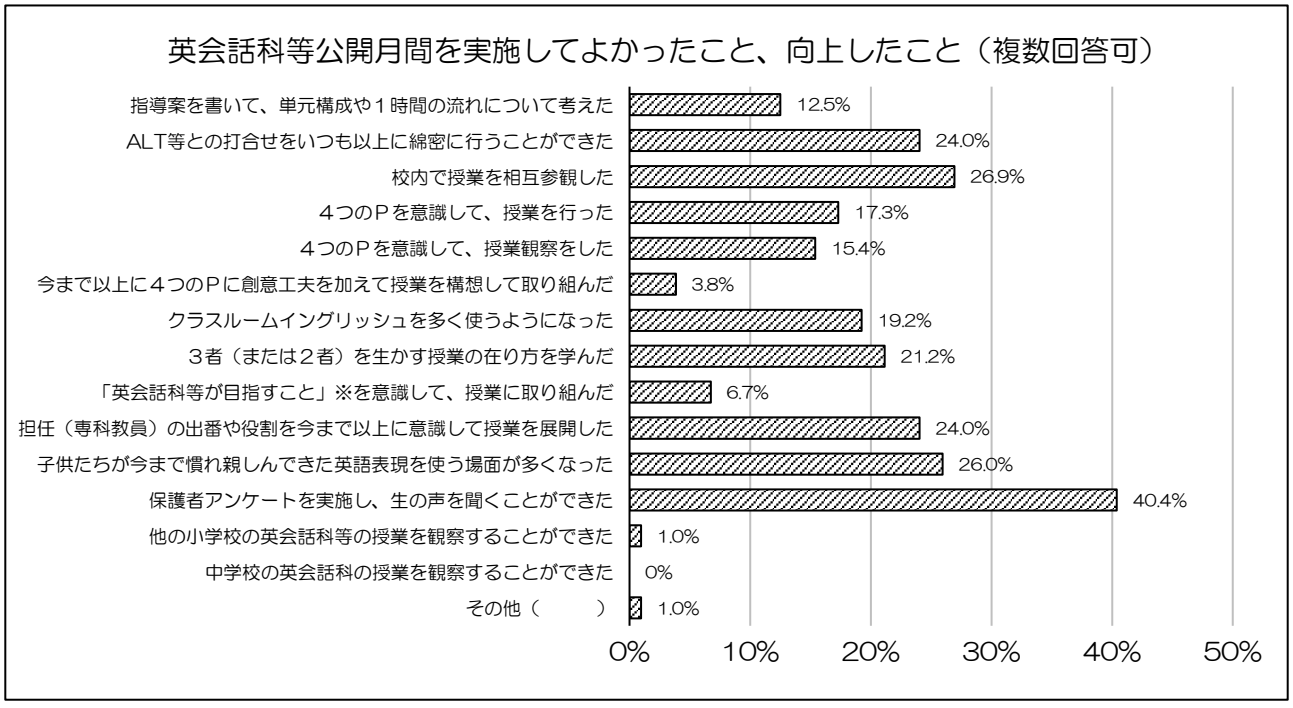
授業公開月間は、公開をした教員にとっては普段の授業を見直す機会となった。全教員にアンケートを実施し、下のグラフはその結果である。

小学校では、「校内で授業を相互参観した」や「ＡＬＴ等との打合せをいつも以上に綿密に行うことができた」「担任（専科教員）の出番や役割を今まで以上に意識して、授業を展開した」「子供たちが今まで慣れ親しんできた英語表現を使う場面が多くなった」などの回答の割合が高かった。しかし、他の小学校の英会話科等の授業を参観したり、中学校の英会話科の授業を参観したりすることはあまり行われなかった。これは、今回の授業公開が学校数や学級数を限定したため、各学校の公開日数が少なくなったことが要因と考えられる。

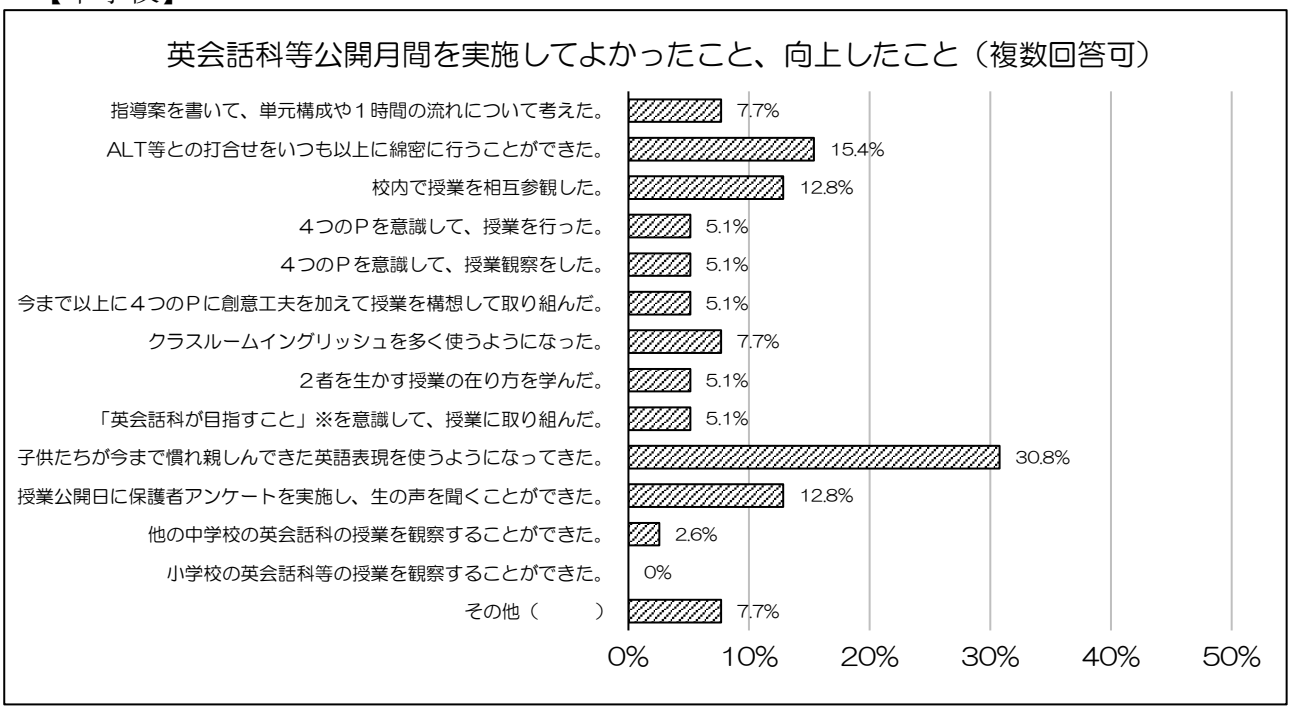
中学校では、「英会話科公開月間を実施してよかったこと、向上したこと」のアンケートの対象を英語科教員とＪＥＴ等に限定した。アンケートでは、「子供たちが今まで慣れ親しんできた英語表現を使う場面が多くなった」という回答の割合が最も高く、次に「ＡＬＴ等との打合せをいつも以上に綿密に行うことができた」、「校内で授業を相互参観した」という順になった。また、小学校の結果と同じように、他の中学校の英会話科の授業を参観したり、小学校の英会話科の授業を参観したりすることはあまり行われなかった。

①　英会話科等公開月間を実施してよかったこと、向上したこと（複数回答可）

【小学校】



【中学校】



教員の思い

【小学校】

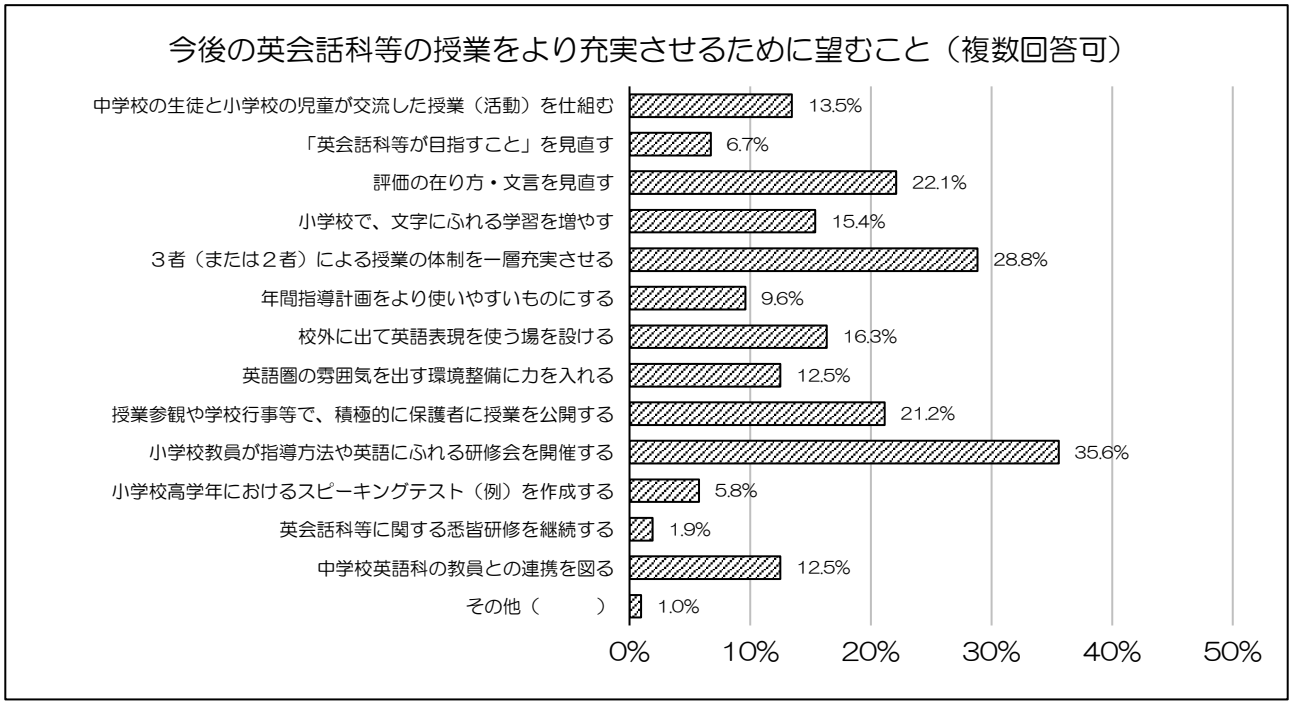
・ＡＬＴの母国と日本の文化や行事の違いについて、時期に合わせてＡＬＴから話を聞く時間が給食時などにあってもよいと思う。コロナが流行する前はやっていたので、復活させてもよい。
・打合せをしっかり行うことで、様々なアイディアの共有ができた。
・保護者に英会話をどのように行っているかを知ってもらえてよかった。
・支援級担任として、課題のあるときやテストのときは、補充学習に取り組んできた。
・各学校での公開クラスが限定されていたので、他の学校を観察する機会を取りにくかった。
・指導案を書くことで、ＨＲＴとＡＬＴの役割を意識しながら計画を立てることができた。
・早めに教材の準備ができた。

【中学校】

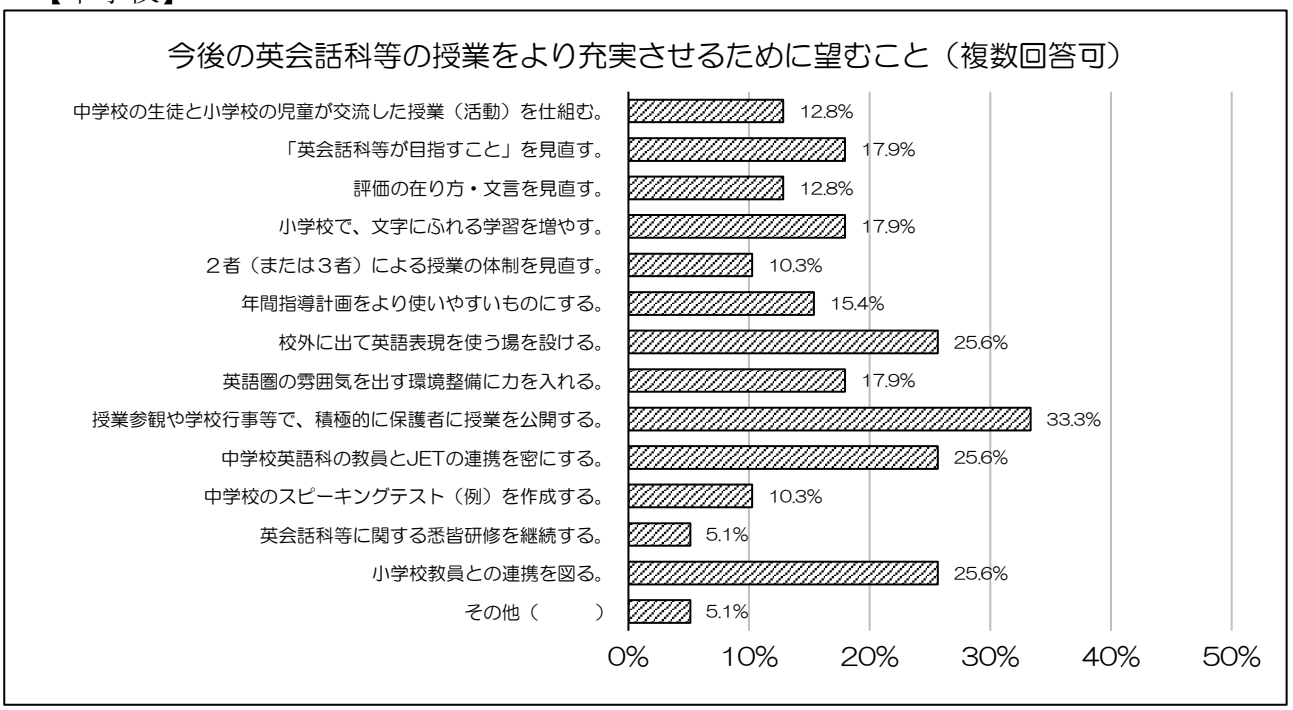
・市内に中学校が２校しかないため、１日しか公開する日がないと、中々都合が付かず参観する機会をつくることができなかった。

② 今後の英会話科等の授業をより充実させるために望むこと（複数回答可）

【小学校】



【中学校】



教員の思い

【小学校】

・学習というより「英語に触れる」を大切に英語は楽しいと思える環境づくりに努めたい。
・小学校での文字指導は、児童への負担になり過ぎない程度が望ましい。
・授業を公開しても、なかなか保護者の参観にはつながっていないのではないかと感じています。あまりたくさんの人が見に来ない中、指導案を書くのは負担が大きいと思った。教員同士がもっと気軽に互見授業ができる環境をつくる、保護者に見てもらうために一日授業参観の中で１つは外国語の授業を行うなど、いつもの外国語活動を見せる機会があればと思います。指導案がどのような授業になるのかも興味はあるが、打合せの資料がいかに授業に生かされているのかも知りたい。
・中学校英語科の教員との連携について、実態が分からない。
・通知表に記載する際、どのように書いたらよいか悩む。
・外国語は専科がよい。
・３年生でローマ字を習うとき、大文字・小文字を習得しているくらいに文字に親しんでいけたらよい。
・小中学校間で授業を参観できる機会がもっとあるとよい。

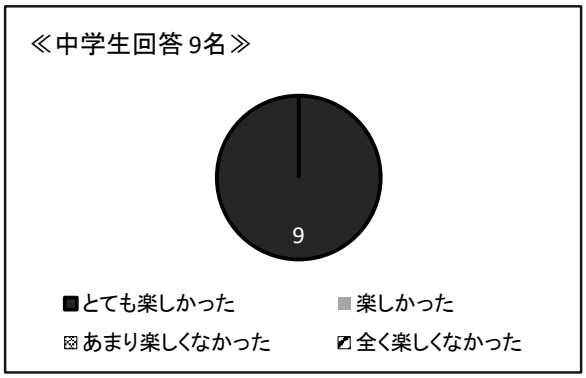
【中学校】

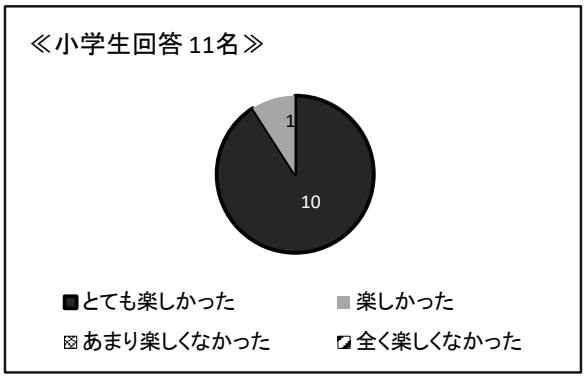
・研修の機会はさらに多いとありがたい。特に２中学校のＪＥＴが連携して英会話教育を推進できるためには、２者の話合い(年間計画についての検討や日々の実践事例のもちより)などに使える時間が現行のままでは非常に少ないと感じる。
・英語科の授業でさらにコミュニケーションに関する力を高めていくことを考えてもよいのではないか。
・常に英語が耳に入るなど、英語が身近にあり、現在もよい環境だと思う。

令和4年度　英語サマーキャンプ

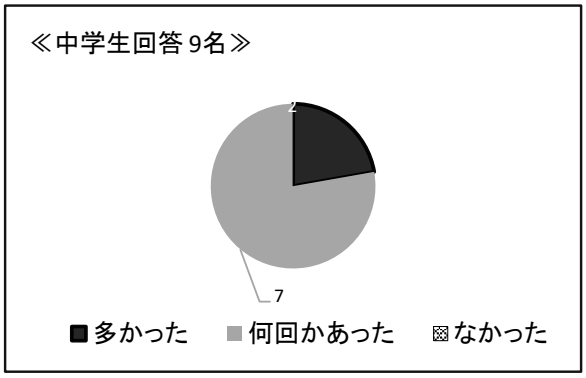
1　期　日　　8/24(水)～8/26(金)　2泊3日
2　場　所　　黒部市ふれあい交流館「あこや～の」
3　参加者　　20名　　小学5年生 4名（男子3名、女子1名）、小学6年生 7名（男子3名、女子4名）
　　中学1年生 9名（男子1名、女子8名）
4　指導者　　ALT(7名)、英会話講師(6名)
　　黒部市教育委員会学校教育課・教育ｾﾝﾀｰ職員、養護教諭
5　参加者アンケートの結果(小学生11名、中学生9名回答)

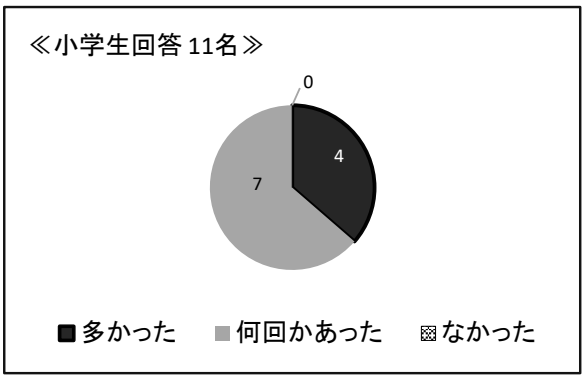
(1)英語サマーキャンプは楽しかったですか



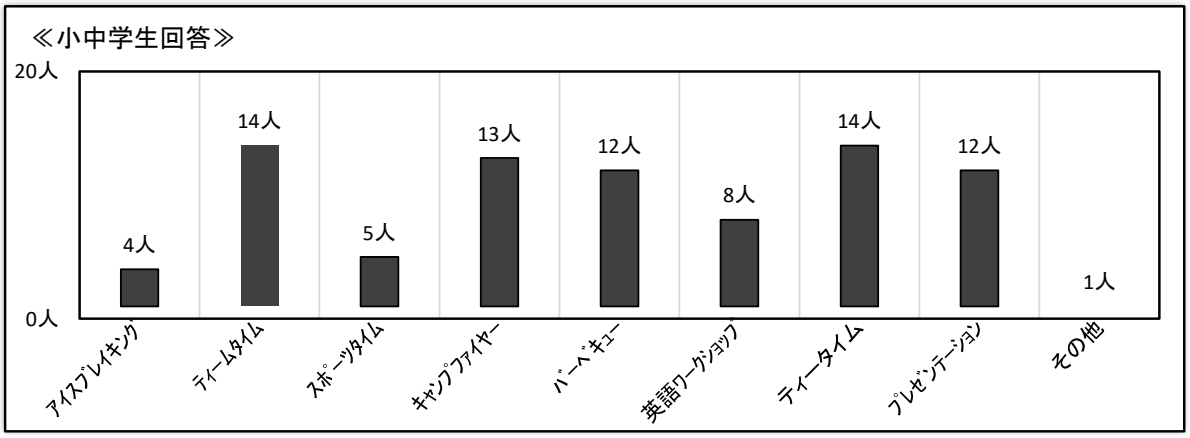


(2)自ら進んで英語を使うことがありましたか





(3)楽しかった・やりがいのあった活動



(4)自由記述

【中学生】・チームの仲が深められ、協力して劇を成功できてよかった。英語劇をやってもっと英語を好きになれた。
・英語に楽しんでふれることができた。2学期からはこれまで以上に英語を頑張りたい。
【小学生】・この機会を活かして、これからも英語を喋るのを頑張りたい。ほぼ英語だけの生活が楽しかった。
・ALTや英会話講師の方が、色んなことを教えてくれて、いいコミュニケーションをとることができた。

6　反省

上述のように参加者の評価は高かった。3年ぶりの開催とあって、参加者は少なかったものの、その分指導者の目が行き届きやすく、コミュニケーションの機会も多かったため、中身の濃いキャンプになったのではないかと考えている。前回(R元年度)の反省から、休み時間を増やし、全体的に余裕を持たせたスケジュールに設定したところ、体調不良者等出ることなく、最終日までやりきることができた。開催までに指導者間で複数回ミーティングをしたことで、全体の動きの把握や、各活動の詳細などを共有することができ、滞りなく進めることができた。

人数が例年と比べて少なかったことによるメリットも多く、来年度以降参加人数や、参加人数に応じた活動を検討したい。

令和4年度　姉妹都市交流研修事業（メーコン・ビブ郡派遣）の概要

1　期　日　　11/4（金）～ 11/11（金）　7泊8日（うち5泊ホームステイ）

2　派遣団　　19名（学生16名、引率3名）

3　日　程

日　付	時　　間	行　　程	備　　考
11/4 （金）	～9:10	集合（黒部市役所）	
	9:20～9:30	出発式	保護者、教育長、各校長出席
	9:30～10:50	黒部市役所⇒富山空港	市中型バス、マイクロバス
	11:40～12:45	富山空港⇒羽田空港	ANA316　昼食：羽田空港内
	17:35～ ～17:05	羽田空港 発 アトランタ空港 着	DL296便　夕食～昼食：機内食 ≪日付変更線通過≫
	18:00～19:00	アトランタ⇒メーコン	メーコン公用車
	19:00～20:00	歓迎レセプション＠市庁舎	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと対面
	＜ホームステイ①（１泊目）＞		
11/5 （土）	１日	市内研修	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	＜ホームステイ②（２泊目）＞		
11/6 （日）	～17:00	市内研修	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと過ごす
	17:00～19:00	日本・黒部紹介及び夕食会	生徒、随行、ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰ
	＜ホームステイ③（３泊目）＞		
11/7 （月）	１日	学校訪問	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと一緒に授業参加
	＜ホームステイ④（４泊目）＞		
11/8 （火）	8:00～10:00	学校訪問	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと一緒に授業参加
	10:30～	YKKメーコン工場見学	
	12:00～	メーコン・ビブ郡市長表敬訪問	市長親書代読（濱田）、 教育長親書代読（中陳由）
		メーコン・ビブ郡内施設見学	
	14:30～	学校訪問	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと一緒に授業参加
	＜ホームステイ⑤（５泊目）＞		
11/9 （水）	8:00～	学校訪問	ﾎｽﾄﾌｧﾐﾘｰと一緒に授業参加
	11:30～12:30	メーコン・ビブ⇒アトランタ	バス内でお弁当の予定
	13:00～	アトランタ市内研修	コカ・コーラ博物館、 国立市民人権センター
	17:15～	夕食	
	＜アトランタ市内ホテル（６泊目）＞		
11/10 （木）	8:00～8:30	ホテル⇒アトランタ空港	
	10:50～	アトランタ空港 発	DL295便　昼食、夕食：機内食 ≪日付変更線通過≫
	＜機中泊（７泊目）＞		
11/11 （金）	～15:10	羽田空港 着	夕食：羽田空港内
	19:35～20:35	羽田空港⇒富山空港	ANA321
	21:00～22：20	富山空港⇒黒部市役所	市中型バス、マイクロバス
	～22:30	解散	

Ⅳ　付録　　英会話科等17年間のあゆみ（主な取組）

１　平成18年度（黒部国際化教育特区として、平成18～20年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　市教委、市教セ、学校の役割分担

ア　市教委の役割＝ハード面の整備

・研修会・情報交換会の計画・実施（予算、場所等の確保）、ＡＬＴ、ＪＡＴの給与、服務関係等

イ　センターの役割＝ソフト面の整備

・学校訪問（授業参観、助言等）、研修会・情報交換会における助言、新たな教材開発等

ウ　学校・指導者の役割＝指導面の推進

・有効な打ち合わせ方法の開発、授業実践・振り返り・改善（年間計画へのメモ）、保護者への情報提供

②　英会話科授業時数

ア　小学校

・１、２年・・・標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間10時間）

・３～６年・・・「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）

イ　中学校

・１～３年・・・「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間35時間）

③　英会話科指導案集の作成（カリキュラム評価部会）

・黒部市小学校中学校教科「英会話指導計画」の見直し、作成

④　教材・教具の購入

・ランダム機能付きＣＤプレーヤー、ポータブルＤＶＤプレーヤー、ビッグブック、スターターズパック（英語活動指導用教材）

⑤　ＤＶＤ作成、学校への配布

・ねらい　子供たちが日常生活でよく使用される英語表現に慣れる機会を提供する。

・内容　　あいさつ／レッツゴーたんけん／道案内をしよう／約束する／部活動／
レストランへ行こう／買い物をしよう／旅行に行こう／
黒部の名所・施設を紹介しよう

⑥　授業公開

・各校の実情に合わせて実施。

⑦　国際化教育特区報告会とディスカッション（２月）

・参加者　　市内小中学校全職員

・内容　　英会話科アンケート調査の結果報告、英会話委員会からの報告、
パネルディスカッション
指導助言者　文京学院大学教授　渡邉寛治先生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導研修会（６月に２回実施）

・ねらい　　英会話科の指導の実際を振り返り、指導の改善を図る。

・参加者　　ＨＲＴ、ＪＡＴ

・内　容　　英会話科授業のビデオ視聴、グループ討議。三者による授業の進め方、効果的な役割分担、興味関心を高める指導方法

② 英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）
・参加者　市内小中学校教員希望者
・内　容　リスニング、スピーキングの具体的なアクティビティー
・講　師　富山国際大学助教授　福島美枝子先生
③ 英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　互見授業や授業実践に基づく情報交換、ＤＶＤやカリキュラム作成の補助
④ 黒部市小学校教育研究会による学年別研修会
・参加者　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ
・内　容　模擬授業を通した実践的指導力の向上
⑤ 英会話科実態調査
・ねらい　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。
・対　象　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

２　平成19年度

（１）英会話科の推進に関すること
① カリキュラムの見直し
・視　点　トピック精選､児童の実態に合わせた言語活動の展開､英語と日本語で整理
・進め方　第１回～第７回の20年度版カリキュラムを作成、ＨＲＴによる勉強会
② 国際化教育特区成果検証事業（２月）
・趣　旨　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。
・対　象　田家小学校６年児童
③ ＤＶＤの作成
・ねらい　日常生活でよく使用される英語表現に対し、子供たちが慣れる機会を提供し、話すこと、聞くことの指導の充実に生かす。
・内　容　何て言うのかな？／体の調子は？／お天気は？／教室英語／
あいさつ状をつくろう／私・あなた・彼・彼女／様子を表す言葉／
言えるかな？／どこにあるかな？／ジャックはどこだ？

（２）教員の研修や調査に関すること
① 英会話指導研修会（７月、８月）
・形　態　各校へ出向いて行う研修
・内　容　基本的な発音練習、クラスルームイングリッシュの練習、子供の興味・関心、意欲を高める実技指導等。
② 英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）
・内　容　講演「どうする、どうなる、小学校英語」とワークショップ
・講　師　京都市総合教育センター　直山木綿子　先生
③ 英会話科担当者定例会（計13回）
・参加者　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　作業部会、ＤＶＤ作成、サマーキャンプ打ち合わせ､「英会話指導のポイント」作成、授業研究

④　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修
（６月、２月）

・参加者　　市内小学校全職員
・内　容　　英会話科における教材やアクティビティーの開発、ＡＬＴ、ＪＡＴや地域人材の活用
・講　師　　東京国際大学教授　新里眞男先生

⑤　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）

・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ
・内　容　　模擬授業を通した実践的指導力の向上

⑥　英会話科実態調査

・目　的　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。
・対　象　　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市訪問（中学生姉妹都市研修）（新規、Ｈ２１にも実施）

・目　的　　姉妹都市のオランダ・スネーク市を訪問し､ホームステイや学校訪問を体験し、現地中学生との交流を図る。
・期　間　　９月30日から10月８日（ホームステイ４泊）
・事前研修　５回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

②　英語サマーキャンプ（新規、以降、毎年継続）

・目　的　　市内小学生がＡＬＴ等と生活をともにし、友情を深めるとともに、様々な活動を通して、楽しみながら英語に親しむ。
・期　間　　７月31日～８月２日（２泊３日）
・場　所　　あこや～の

③　児童センター英語活動（新規、以降、毎年継続）

・目　的　　小学生がＡＬＴ、英会話講師と一緒に遊び、英語や外国の文化に触れる。
・期　間　　夏休み中の平日、午前10時～12時
・場　所　　中央児童センター、東部児童センター

３　平成20年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会の開催（新規）

・趣　旨　　国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を有し、社会に貢献できる人材を育成すること。

②　黒部国際化教育研究発表会

・趣　旨　　黒部国際化教育３年間の取組を振り返り、今後の事業展開の在り方について検討すると共に、小中一貫の英会話科など黒部の取組を市内外にＰＲし、ノウハウを提供するとともに多方面からアドバイスをもらいながら今後の発展に生かす。
・対　象　　黒部市小中学校全教員、市内外参観者
・期　日　　11月14日
・会　場　　三日市小学校

・内　容　　公開授業、部会協議会、公開活動、全体会（研究経過、実践報告、講演）
演題　「これからの黒部の英語教育　－新学習指導要領のもとで－」
講師　東京国際大学教授　新里眞男先生

③　カリキュラムの見直し

・視　点　　中学校のトピックの精選、活動内容と評価の整合性、評価規準の検討、英語と日本語で整理

・進め方　　英会話科定例会において検討した21年度版カリキュラム（定例会案）を５回のカリキュラム評価部会において、検討、見直しをする。第４回カリキュラム評価部会で新里眞男教授から指導助言を受ける。

④　国際化教育特区成果検証事業（12月）

・趣　旨　　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて、１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　　田家小学校６年児童

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）

・内　容　　「聞いて分かる」小学校英語活動（模擬授業、ワークショップ）

・講　師　　新潟市立新潟小学校教諭　渋谷　徹先生

②　黒部市小学校教育研究会による学年別研修会（７月）

・参加者　　市内小学校全教員、ＡＬＴ、ＪＡＴ

・内　容　　年間指導計画改善のポイントの共通理解、実技研修

③　文部科学省委託富山県小学校英語活動推進事業拠点校（田家小学校）との協業研修（10月）

・内　容　　公開授業（効果的なティームティーチングの在り方、ＤＶＤやカード等の視聴覚教材や英語ノート等を活用した指導法の改善、小中の連携）

・講　師　　富山大学　岡崎浩幸　准教授

④　英会話科担当者定例会（計８回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　ＤＶＤの使用法､カリキュラム検討､サマーキャンプ打合せ｢英会話指導｣

⑤　ＤＶＤ指導法研修会

・目　的　　平成19年度作成のＤＶＤの活用に関する研修

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師、ＨＲＴ各校１名

⑥　英会話科実態調査

・目　的　　アンケートを通して、子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。また、前年度と比較しながら英会話科の成果と課題を探る。前年度６年生の追跡調査を行い、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　　小学校６年生、中学校１年生、中学校３年生、小学校担任教諭

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　オランダ・スネーク市の中学生受け入れ（新規、Ｈ２２にも実施）

・目　的　　姉妹都市のオランダ・スネーク市の中学生８人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。

・期　間　　９月24日から９月30日（ホームステイ４泊）

②　アメリカ・メーコン市訪問（新規、以降、隔年で実施）

・目　的　　本市の中学生８名が姉妹都市のメーコン市を訪問し、ホームステイや現地生徒との交流を通して、外国文化に触、実践的な英語コミュニケーション能力の習得と国際理解に資する。・期間　10月26日から11月３日（ホームステイ５泊）

・事前研修　６回（活動内容説明、英会話レッスン、交流活動練習、他）

４　平成21年度（教育課程特例校として、平成21～26年度）

（１）英会話科の推進に関すること

①　教育課程特例校に認定（英会話科の授業時数は以下の通り）

ア　小学校

・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間10時間）

・３～６年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）

イ　中学校

・１年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）

・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間35時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（７、11、３月）

・参加者　教育長、小中校長会長、小中教研会長、帰国児童生徒教育研究会長、県小教研外国語活動部会長、学識経験者、保護者代表、国際企業、市教委、市教セ

・内　容　協議会組織、英会話科指導体制、国際交流事業、黒部国際化教育の予算、ＡＬＴ等の配置・勤務、規定一部改正、客観テストの利用

・その他　専門委員会として、英会話委員会（カリキュラム評価部会、研修部会)、日本語委員会、地域委員会、予算・人員配置委員会、事業評価委員会を置く。

③　国際化教育の成果の検証事業（２月）

・趣　旨　英会話科で慣れ親しんだ英語表現を用いて１対１による面接を実施し、児童の英会話力を検証し、今後の英会話科の指導に生かす。

・対　象　田家小学校６年生

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（８月）

・参加者　推進校教員及び市内小中学校教員希望者

・内　容　実技研修「知的好奇心発　聞く力経由　コミュニケーション能力行きの提案」

・講　師　新潟市立白根小学校教諭　佐藤貴子先生

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）

・参加者　魚津地区小中学校教員希望者

・講　演　「外国語活動を考える」

・講　師　関西大学外国語学部教授　田尻悟郎先生

③　中学校英会話科スキルアップ講習会（12月）

・内　容　授業に取り入れたい学習活動、ＤＶＤによる授業研究

④　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

⑤　英会話科カリキュラム評価研修会（11月）

・参加者　市内各校英会話科担当教員

・内　容　英会話科カリキュラム、評価規準の見直し、他

⑥　英会話科実態調査（11～12月）

・趣　旨　子供たちの言語活動に対する評価、興味・関心等を把握する。

・対　象　小学校６年生、中学校３年生、小学校担任及び英会話科担当者

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　アメリカ・メーコン市の生徒受け入れ（新規、以降、隔年で実施）

・目　的　　姉妹都市のアメリカ・メーコン市の生徒５人を受け入れ、ホームステイや学校訪問を通して、本市中学生との交流を深める。

・期　間　　11月22日から11月29日（ホームステイ５泊）

５　平成22年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　黒部国際化教育推進協議会（３月）

・内　容　　平成22年度事業の報告、ＡＬＴ等の配置、平成23年度予算

②　英会話科授業時数

・小中学校ともに、平成21年度に同じ。

③　英会話科実態調査（11～12月）

ア　中学校１年対象　（７月）
　小学校英会話科が中学校英語へ与える影響と効果についての調査（アンケート）

イ　小学校６年、中学校３年、小学校学級担任
　英会話科実態調査（アンケート）

ウ　小学校６年（抽出校）
　児童の英会話力の検証と授業改善を目的とした調査（面接）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）

・参加者　　市内小学校教員希望者

・目　標　　小学校教員の英語運用能力を高める

・講　師　　ＡＬＴ、教育センター研究主事

②　外国語活動研修会（センター協との協業）（７月）

・参加者　　魚津地区小中学校教員希望者

・講　演　　「小学校外国語活動の考え方、捉え方」

・講　師　　麗澤大学　非常勤講師　トム・マーナー　先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　英会話科の授業改善、授業研究

④　英会話科カリキュラム評価研修会（８月）

・参加者　　市内各校英会話科担当教員

・講　話　　「効果的な英会話科の授業展開」

・講　師　　富山大学　准教授　岡崎浩幸　先生

６　平成23年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間10時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）
・５、６年　「外国語活動」の一部を割当て（年間35時間）
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」＋「選択」の一部を割当て（年間35時間）
・２、３年　「選択教科」の一部を割当て（年間35時間）

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話実技研修会（市小教研協業）（７～８月に４回開催）
・参加者　　市内小中学校教員希望者
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　ＡＬＴ、英会話講師、教育センター研究主事

②　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業実践に基づく情報交換、研究授業、サマーキャンプへの協力

③　英会話科カリキュラム評価研修会（７、８、10、１月）
・参加者　　市内各校英会話科担当教員
・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、評価規準の見直し、各校の取組の情報交換、各種調査の分析・考察
講演　「英会話科における効果的な小中連携の在り方」
講師　富山大学准教授　岡崎浩幸　先生

④　英会話科の成果の検証
ア　中学校１年対象（７月）
・小学校英会話科が中学校英語に与える影響と効果
イ　小学校６年、中学校３年、学級担任、ＡＬＴ、英会話講師対象
・英会話科に対する児童生徒の意識、態度、姿勢を把握し、授業改善につなげる。
ウ　ＡＬＴとの面接調査（Enjoy talking）（新規）
・対象小学校６年、中学校１～３年
・教員が児童のコミュニケーション面での実態を把握し、授業改善につなげる。
・児童が少人数でＡＬＴと会話することを通して､コミュニケーションの楽しさを味わう。

７　平成24年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数
ア　小学校
・平成23年度に同じ。
イ　中学校
・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間15時間）
・２、３年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（５、７、１月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　黒部国際化教育の将来構想、平成24年度事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　英会話科企画・運営・評価部会研修会（５、６、９、１月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

④　英会話科授業公開月間（11月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・「黒部の英語教育」リーフレットの作成、配布

・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布

・英会話科公開月間、英語サマーキャンプ、メーコン市派遣をみらーれテレビで放映

・英会話科の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話指導者研修会（８月２回）

・参加者　　小学校教員悉皆

・内　容　　学年の最終ゴールについて、学習指導案作成や実践のまとめ作成の説明

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　上野郁行先生

②　英会話実技研修会（７月２回）

・参加者　　市内小中学校教員希望者

・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める

・講　師　　東部教育事務所　小学校外国語活動指導員　庭田順子先生

③　英会話科担当者定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　服務、授業力向上、役割分担にかかわる研修、各校の取組の情報交換

④　英会話科カリキュラム評価部会研修会（７、８、１月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員（※中学校からも各校１名）

・内　容　　英会話科授業改善、カリキュラムの改善、実態調査、他

８　平成25年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

ア　小学校

・平成23年度に同じ。

イ　中学校

・１年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間25時間）

・２、３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）

②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　平成25年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部の英語教育組織部会（６、11、２月）（新規）
・参加者　　小中校長会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、副部長、市教委・市教セ
・内　容　　平成25年度英語教育、26年度の重点、公開授業についての協議、共通理解等
④　英会話科企画・運営・評価部会研修会（１、８月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の充実（平成25年度の重点、英会話科に係るアンケート実施、平成26年度の重点と授業公開月間の実施)、情報交換
⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・ふるさと黒部を豊かに語れる生徒の育成を目指して、ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材、黒部マップを作成し各校に配布する。

（２）教員の研修や調査に関すること
①　英会話科指導者研修会
ア　第１回（５月）
・初任者や臨任講師に英会話科についての研修を行う。
イ　第２、３回（８月）
・参加者　小学校教員（悉皆)、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・英会話科の授業充実を目指し、講話と学習指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生
②　英会話実技研修会（２回）
・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める
・講　師　　東部教育事務所　外国語活動指導員　庭田順子先生
③　英会話科担当者定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　服務、授業改善、研究授業、情報交換
④　英会話科カリキュラム部会研修会（５、８、12月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員（小中各１名、12月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加）
・内　容　　平成25年度の重点、英会話科の授業改善、カリキュラム改善

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　英語サマーキャンプ
・中学校１年生も参加する。

９　平成26年度

（１）英会話科の推進に関すること
①　英会話科授業時数
・小学校は平成23年度に同じ。
・中学校は平成25年度に同じ。
②　黒部国際化教育推進協議会（６、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ

・内　容　　平成26年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（５、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　平成26年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（４、７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）

・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・ピクチャーカード、This is Kurobe、デジタル教材の一部改訂、追加

・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布

・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）

・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（７、８月）

・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と指導案作成のワークショップを行う。

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

②　英会話実技研修会（市小教研協業）（７月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）

・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める

・講　師　　東部教育事務所　指導主事　庭田順子先生

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師

・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12月（12月はＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴも参加））

・参加者　　市内各校カリキュラム部員

・内　容　　ピクチャーカードの活用や学期末の復習、授業の質的向上について情報交換、平成27年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約50名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校３年生８名派遣

10　平成27年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成23年度に同じ。
・中学校は平成25年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、２月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成27年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成27年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（８、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換

⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobeの作成
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの配布
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話とクラスルームイングリッシュのワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

③　カリキュラム部会（８、12月（12月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加））

・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　文字（アルファベット）の指導に関する協議、授業の質的向上について情報交換、平成28年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約50名参加）

②　姉妹都市交流研修事業

・メーコン・ビブ郡より高校生が９名来市、ホームスティ。

11　平成28年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数

・小学校は平成23年度に同じ。
・中学校は平成25年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成28年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、２月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成28年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（５、７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11月）

・英会話科の授業を保護者や地区住民に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小中学校の全学級で英会話科の授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。

⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobeの作成
・英会話科授業公開月間のまとめの作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みら～れＴＶ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科指導者研修会

ア　第１回（５月）
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。

イ　第２、３回（８月）
・参加者　　小学校教員（悉皆）、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　英会話科の授業充実を目指し、講話と模擬授業、指導案作成のワークショップを行う。
・講　師　　東部教育事務所　指導主事　浦田栄信　先生

②　英会話実技研修会（７月）

・参加者　　市内小中学校教員希望者（魚津地区も参加可）
・目　標　　小学校教員の英語運用能力と英会話科の授業力を高める。
・講　師　　小学校英語専科講師　杉原栄子　先生
　　ＡＬＴ　ヘンリー・プロサクⅢ　先生

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

④　**カリキュラム部会（８、12月、**12月はＪＡＴ、ＪＥＴも参加）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成29年度の年間指導計画の作成、授業の質的向上についての情報交換、This is Kurobeの活用、英検取得状況、他

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　**英語サマーキャンプ（８月）**
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約50名参加）
②　**姉妹都市交流研修事業（11月）**
・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

12　平成29年度

（１）英会話科の推進に関すること
①　**英会話科授業時数**
・小学校は平成23年度に同じ。
・中学校は平成25年度に同じ。
②　**黒部国際化教育推進協議会（７、３月）**
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、市教委、市教セ
・内　容　　平成29年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題に関して意見交換。
③　**黒部国際化教育組織部会（５、12、３月）**
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　平成29年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
④　**企画・運営・評価部会（３月）**
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換
⑤　**英会話科事業の充実、環境整備、広報活動**
・This is Kurobeの作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること
①　**英会話科指導者研修会（５月）**
・市外からの着任者や初任者に英会話科についての研修を行う。
②　**外国語活動講演会（魚津地区教育センター協業）（７月）**
・参加者　　魚津地区小・中学校　教員
・講　師　　文教大学教育学部　教授　金森強先生
・演　題　　新学習指導要領に応じた英語指導の在り方－主体的な学びを促す授業づくり－
③　**英会話科定例会（月１回）**
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（８、12月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成29年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
　　平成30年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が約50名参加）
②　姉妹都市交流研修事業（10月）
・メーコン・ビブ郡より高校生が15名来市、ホームステイ。

13　平成30年度

（１）英会話科の推進に関すること
①　英会話科授業時数等
ア　小学校
・１、２年　標準総授業時数を超えて月１時間程度実施（年間10時間）
・３、４年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）
　　新学習指導要領対応小学校外国語活動教材「Let's Try!」（文部科学省発行）
　　を活用
・５、６年　「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間50時間）
　　新学習指導要領対応小学校外国語教材「We Can!」（文部科学省発行）を活用
イ　中学校
・１、２年　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間25時間）
・３年　　「総合的な学習の時間」の一部を割当て（年間35時間）
ウ　年間指導計画
・新学習指導要領に準拠して内容を変更
②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、
　　市教委、市教セ
・内　容　　平成30年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題
　　に関して意見交換。
③　黒部国際化教育組織部会（５、３月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、
　　市教委、市教セ
・内　容　　平成30年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意
　　見交換。
④　企画・運営・評価部会（７、３月）
・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点に関する共通理解、情報交換
⑤　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobeの作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　英会話科研修会（４月）

・参加者　　市内小学校第５・６学年英会話科担当教員、ＡＬＴ、英会話科講師
・内　容　　模擬授業の実践及び協議を通して、授業力向上を図る。

②　英会話科指導者研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員（悉皆）
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・演　題　　「小学校外国語科の同校と授業への関わり方」
・内　容　　講演及び演習（指導案例の作成）

③　英会話科定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、サマーキャンプへの協力、他

④　カリキュラム部会（10、12月）

・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　平成30年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
　　平成31年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が69名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

14　令和元年度

（１）英会話科の推進に関すること

①　英会話科授業時数等

・小学校は平成30年度に同じ。
・中学校は平成30年度に同じ。
・令和２年度からの教育課程特例校について、小学校は指定廃止、中学校は継続が決定

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、学識経験者、桜井高校長、保護者代表、国際企業、公募者、
　　市教委、市教セ
・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議、方針決定。事業の成果と課題
　　に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、
　　市教委、市教セ
・内　容　　令和元年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意
　　見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、９、３月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科の指導の重点や公開授業運営に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科授業公開月間（10～11月）
・英会話科の授業を保護者や地区住民等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。（市内小学校の全学級、市内中学校各学年の一部の学級で授業を公開）
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめ作成をする。
⑥　英会話科事業の充実、環境整備、広報活動
・This is Kurobeの作成
・「英会話科のまとめ」の作成、配布
・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」や「みらーれＴＶ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること
①　英会話科指導者研修会（８月）
・参加者　　市内小学校教員（悉皆）
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・内　容　　Classroom English及びSmall Talk等の音読練習や授業の題材の検討を通して、指導力向上を図る。
②　英会話科定例会（月１回）
・参加者　　ＡＬＴ、英会話講師
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他
③　カリキュラム部会（７、８、12月）
・参加者　　市内各校カリキュラム部員
・内　容　　令和元年度の指導の重点の確認、授業について情報交換、
英会話科指導者研修会の事前研修、令和２年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業
①　英語サマーキャンプ（８月）
・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が58名参加）
②　姉妹都市交流研修事業（10月）
・メーコン・ビブ郡より高校生が14名来市、ホームステイ。

15　令和２年度

（１）英会話科等の推進に関すること
①　英会話科等授業時数等
・小学校は平成30年度に同じ。
・中学校は平成30年度に同じ。
・令和２年度から小学校新学習指導要領全面実施
②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。
③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）
・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和２年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobeの作成

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会　【中止】

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ

・内　容　　授業の充実　他

③　外国語教育研究部会（１月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員

・内　容　　授業について情報交換、
令和３年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ　　【中止】

②　姉妹都市交流研修事業　【中止】

16　令和３年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校は平成30年度に同じ。

・中学校は平成30年度に同じ。

・令和３年度から中学校新学習指導要領全面実施

②　黒部国際化教育推進協議会（８、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ

・内　容　　令和３年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、２月）

・参加者　　小中学校教頭

・内　容　　英会話科等の指導の重点等に関する共通理解、各校の意見集約

⑤　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobeの作成

・「英会話科のまとめ」の作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会

・参加者　　市内小学校教員
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　授業の充実　他

③　外国語教育研究部会（７、１月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員
・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議
　　令和４年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ　　【中止】
②　姉妹都市交流研修事業　【中止】

17　令和４年度

（１）英会話科等の推進に関すること

①　英会話科等授業時数等

・小学校は平成30年度に同じ。
・中学校は平成30年度に同じ。

②　黒部国際化教育推進協議会（７、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

③　黒部国際化教育組織部会（６、３月）

・参加者　　小中校長会長、市小・中教研会長、カリキュラム部長、企画・運営・評価部長、市教委、市教セ
・内　容　　令和４年度黒部国際化教育の事業に関する審議。事業の成果と課題に関して意見交換。

④　企画・運営・評価部会（７、９、２月）

・参加者　　小中学校教頭
・内　容　　英会話科等の指導の重点や公開授業に関する審議。各校の意見集約

⑤　英会話科等授業公開月間（10～11月）

・英会話科等の授業を保護者や他市町村の教員等に公開することにより、市民全体の英語教育への関心を高める。
・各校で学習指導案の作成、アンケートの実施・集約、授業公開のまとめを作成する。

⑥　英会話科等事業の充実、環境整備、広報活動

・This is Kurobeの作成
・「英会話科等のまとめ」の作成、配布

・黒部国際化教育の取組を広報「くろべ」で紹介
・黒部国際化教育を紹介するリーフレットの作成、配布

（２）教員の研修や調査に関すること

①　外国語教育に関する研修会（８月）

・参加者　　市内小学校教員
・講　師　　富山大学教職実践開発研究科　教授　岡﨑浩幸　先生
・内　容　　英語の好きな児童生徒の育成を目指して－小中連携の視点から－

②　英会話科等定例会（月１回）

・参加者　　ＡＬＴ、ＪＡＴ、ＪＥＴ
・内　容　　授業の充実、公開授業に向けて、サマーキャンプへの協力、他

③　外国語教育研究部会（７、12月）

・参加者　　市内各校外国語教育研究部員
・内　容　　外国語科等の充実に向けた協議、評価問題収集作成
　　令和５年度の年間指導計画の作成

（３）国際化教育に関するその他の事業

①　英語サマーキャンプ（８月）

・「あこや～の」で２泊３日（小学校５・６年生と中学校１年生が２３名参加）

②　姉妹都市交流研修事業（11月）

・メーコン・ビブ郡へ中学校２・３年生１６名派遣

令和４年度　黒部国際化教育推進事業

英会話科等のまとめ

令和５年３月　発行

黒部市教育委員会
黒部市教育センター